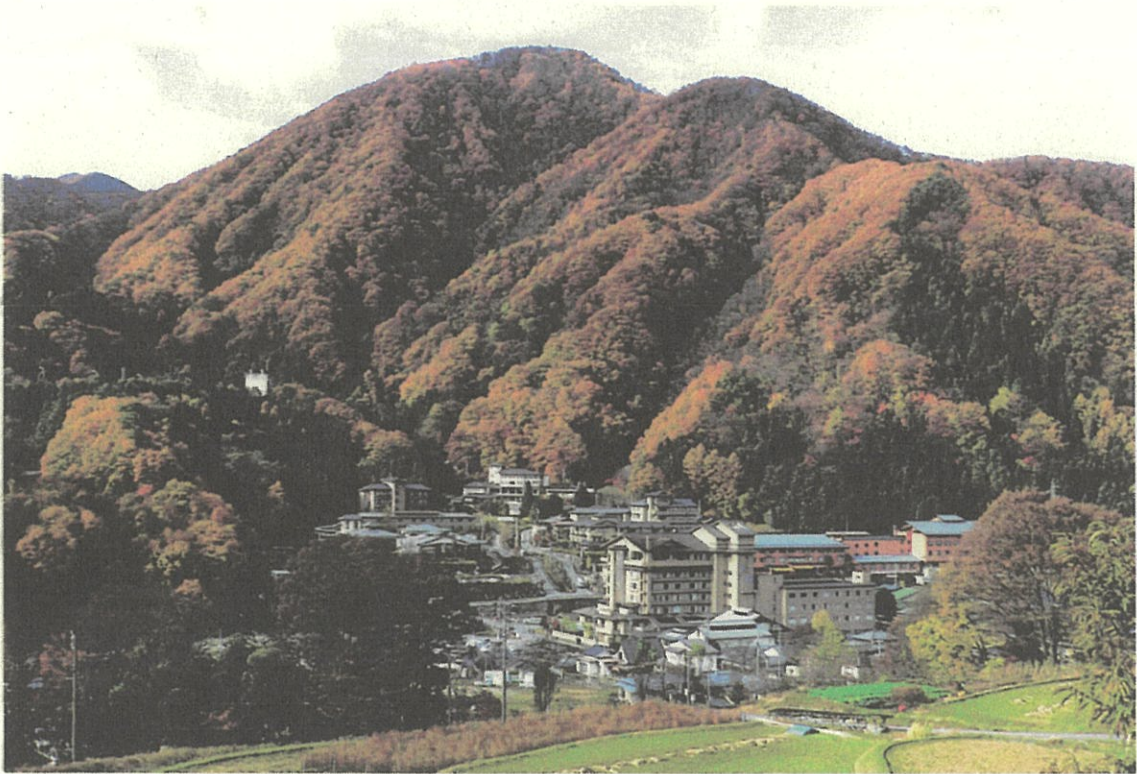


昼神温泉リニア新時代構想

【リニア新時代に輝き続ける昼神温泉の実現のために】

Ver. 1.0



2020年（令和2年）10月

阿 智 村
(株)阿智☆昼神観光局

昼神温泉リニア新時代構想

【リニア新時代に輝き続ける昼神温泉の実現を目指して】

目 次

はじめに	4
第1章 昼神温泉が果たしてきた役割と将来への期待	7
1-1 昼神温泉が果たしてきた役割	8
1-2 経済・社会構造の大変革の到来	9
1-3 人口減少社会において昼神温泉に寄せられる期待・果たすべき責務	11
1-3-1 地域の主要産業としての期待	11
1-3-2 人口減少社会において観光が秘める潜在能力・可能性	12
1-3-3 昼神温泉の行財政への寄与	13
1-3-4 観光を基軸とした地方創生の展開	14
1-4 村民福祉としての昼神温泉の役割	15
第2章 昼神温泉の現状と課題	17
2-1 社会・経済情勢、価値観の変容	18
2-2 多様化する価値観・需要とのミスマッチ	19
2-2-1 団体から個人へ(旅行単位の小規模化・単泊化)	19
2-2-2 訪日外国人旅行者の急増	20
2-2-3 “もの”から“こと”へ	21
2-2-4 情報源・判断基準の多様化	21
2-2-5 若者の車離れ	21
2-3 社会的責任・要請の高まり	22
2-3-1 環境への配慮	22
2-3-2 福祉・人権意識の高まり	22
2-3-3 防災対策・災害時対応の必要性	22
2-4 現実のものとなりつつある経営危機	24
2-4-1 施設の老朽化	24
2-4-2 慢性的な人手不足	24
2-4-3 繁忙期と閑散期の存在	24
2-4-4 負の連鎖	25
2-4-5 《新たな試練》未知の感染症「新型コロナウイルス」への対応	25
2-5 昼神温泉浮上の光明	26
2-5-1 日本一の花桃の里	26
2-5-2 スタービレッジ	27
2-5-3 満蒙開拓平和記念館	28

第3章 リニア新時代に向けて	29
3-1 <u>目前に迫る千載一遇のチャンス</u>	30
3-2 <u>裏腹にある地域活力喪失等の懸念</u>	31
3-3 <u>時代の潮流捉えた的確・積極的な戦略の必要性</u>	31
3-4 <u>昼神温泉将来構想検討委員会による答申</u>	31
3-5 <u>集出荷直売施設に関する答申</u>	37
3-6 <u>リニア新時代に向けた将来構想の策定とその位置づけ</u>	37
第4章 リニア新時代に昼神温泉が目指す姿 ～基本目標と5戦略～	39
I 広域周遊・滞在型観光の起点・拠点化	40
II リピート需要(「もう一泊」「もう一度」)を誘引する魅力創出	41
III 世界基準・世界水準の温泉郷運営	41
IV 安全・安心の提供	42
V 前衛的データ活用	42
第5章 実現への具体策 ～4つの視点(4づくり)から～	43
視点1 まちづくり	44
○交通アクセス確保	
○温泉街整備	
◎温泉郷中心部(村所管施設等の機能)の再整備の方向性	48
視点2 ことづくり(体験・コンテンツ)	54
視点3 ひとづくり	56
視点4 しくみづくり	58
◎「世界に選ばれる」ための備える「世界水準」の選択肢＝SDGsの推進	61
◎4づくりによる5戦略の主な推進策(具体策)一覧	63
第6章 実現に向けた各主体の役割と推進体制	65
6-1 <u>各主体が担う役割と必要な取組</u>	66
6-2 <u>将来構想推進のための体制(組織)</u>	69
第7章 事業の進め方及びスケジュール	71
7-1 <u>計画的・効果的な事業進捗</u>	72
7-2 <u>温泉郷中心部整備スケジュール</u>	72
おわりに	75

はじめに

「おっ温泉だ!!トンネル工事中に噴出」

新聞紙面にそんな見出しが躍ったのは、今から半世紀前の1973年(昭和48年)1月のことです。

当時、旧国鉄が中津川線神坂トンネルの試掘に着手し、昼神湯の瀬地籍で実施していたボーリング調査の最中、30度の温泉が湧出したことを伝えるものでした。

その後、鉄道工事は、無期限凍結され幻の鉄道となる一方、昼神は関係者の並々ならない努力により「いで湯の里」として確実な歩みを刻み、今や南信州、長野県を代表する観光地・温泉地として名実共に認知される存在となっています。ピーク時の2005年(平成17年)には年間79万人もの方々が訪れ、地域の観光・経済活動の牽引役の役割を果たしてきました。

しかし時代は、人口減少、少子・超高齢社会を迎えると共に、国際化、情報化、技術革新の波が人々のライフスタイルや価値観の多様化を加速度的に進め、これまでの常識が通用しない時代を迎えつつあります。

観光産業も例外ではなく、その主流は団体旅行から小グループ・個人旅行へのシフト、若者の車離れ、体験志向の強まり、訪日外国人の急増など、大きな変革の時を迎えております。近年は、宿泊者数も減少傾向が続いており、かつての賑わいに陰りが見え始めています。

このような状況下にあって、昼神温泉の将来を見据えた明確なビジョンの不在によりこれまでの取組は不十分であったと言わざるを得ません。明確な将来ビジョンのもと、関係者それぞれが当事者意識を持って臨んでいくことが必要です。過去に昼神温泉旅館組合がマスタープランを検討したものの、具体的な取組に至らず棚上げされた過去を繰り返してはいけません。

南信州地域の目下の情勢に目を向けると、2027年(令和9年)開通を目指すリニア中央新幹線の整備が国家的プロジェクトとして進むほか、三遠南信自動

車道も同時期の全線開通が見込まれ、南信州地域にとって中央道開通をも上回る交通革命、千載一遇のチャンスが到来しようとしています。これを阿智村の視点で俯瞰すると、リニア中央新幹線長野県駅と岐阜県駅のちょうど中間に昼神温泉が位置します。三遠南信自動車道の起点となる山本ICとの近接や中央道園原ICの立地も含め、阿智村を取り巻く高速交通網は革新的に向上することとなり、これらは観光客を呼び込む絶好の機会となります。

幸いにも阿智村は、昼神温泉のほか日本一の「星空」や「花桃の里」など、貴重な観光資産を多く保有しています。今、我々に必要とされるのは、大きな変革を的確かつ前向きに捉え、リニア新時代にこれら資産を有機的、戦略的に結びつける具体的行動です。

これらの観点から昼神温泉の将来のあり方を議論してきた昼神温泉将来構想検討委員会（上原 力 委員長）は、去る2018年（平成30年）11月、長期滞在できる温泉地の実現に向け、歩き、味わい、癒される魅力ある空間づくりや周遊観光の拠点化の推進などを主旨とする答申書を村長に提出しました。

阿智村及び阿智昼神観光局ではこれをベースに、さらに踏み込んだ検討を重ね、パブリックコメントの結果や未知の感染症への対応という全く新しい命題等をも踏まえた上で、今回ここに、リニア新時代に昼神温泉が目指すべき具体的戦略等を「昼神温泉リニア新時代構想」として取りまとめました。

昼神温泉を将来に渡って輝かせるには、国内のみならず、「世界中から選ばれる昼神温泉」を創ることが必要と考えます。その実現は、村や観光局の取組だけでは到底不可能であり、関係するすべての方々が各々の立場で役割を担っていただくと共に、共通認識のもと一貫した取組を継続して行かねばなりません。

実現に向け、関係するすべての皆さんに本構想を共有いただき、未来の昼神温泉づくりに向けた ONE TEAM による取組を期待するものです。

第1章 昼神温泉が果たしてきた役割と将来への期待

第1章 昼神温泉が果たしてきた役割と将来への期待

出湯以来、半世紀に渡る歴史の中で昼神温泉は、阿智村はもとより南信州、伊那谷の観光や地域経済の振興に大きく貢献してきました。

昼神温泉の未来を描くには、これまで地域で果たしてきた役割を踏まえた上で、将来に渡って地域が求める役割（果たすべき責務）を再認識し、これに応えるものにしていかなければなりません。

1-1 昼神温泉が果たしてきた役割

1973年（昭和48年）、国鉄中津川線のボーリング調査中に温泉が湧出しました。

周囲を山々に囲まれ、農林業が基盤産業であった阿智村にとって、この出来事は大きなインパクトを与えると共に歴史の転換点となります。これを契機に、阿智村の温泉開発が進み、観光産業が阿智村経済の大きなウェイトを占める主要産業に育つこととなります。

当時の日本は、高度成長期の直中にあり、所得の増加に伴って観光ブームが到来します。加えて、1975年（昭和50年）の中央道延伸（中津川IC～駒ヶ根IC）により中京圏からのアクセス道路が確保されるタイミングにも恵まれ、昼神温泉は、団体客を中心に多くの観光客が訪れる有数の温泉地に成長しました。

その影響は阿智村内に止まることなく、まとまった温泉地や宿泊地がない伊那谷においてその宿泊機能の役割を一手に担い、伊那谷全体の観光の牽引役を果たしてきました。

さらに、出湯から十数年が経過する昭和末期から平成初頭にかけて、日本は空前の好景気に湧きます。企業業績は毎年のように過去最高を更新、株価の上昇も止まることを知らず、国民の消費意欲は旺盛でした。観光需要も、右肩上がりの経済成長に支えられる形で拡大を続けます。いわゆるバブル景気です。

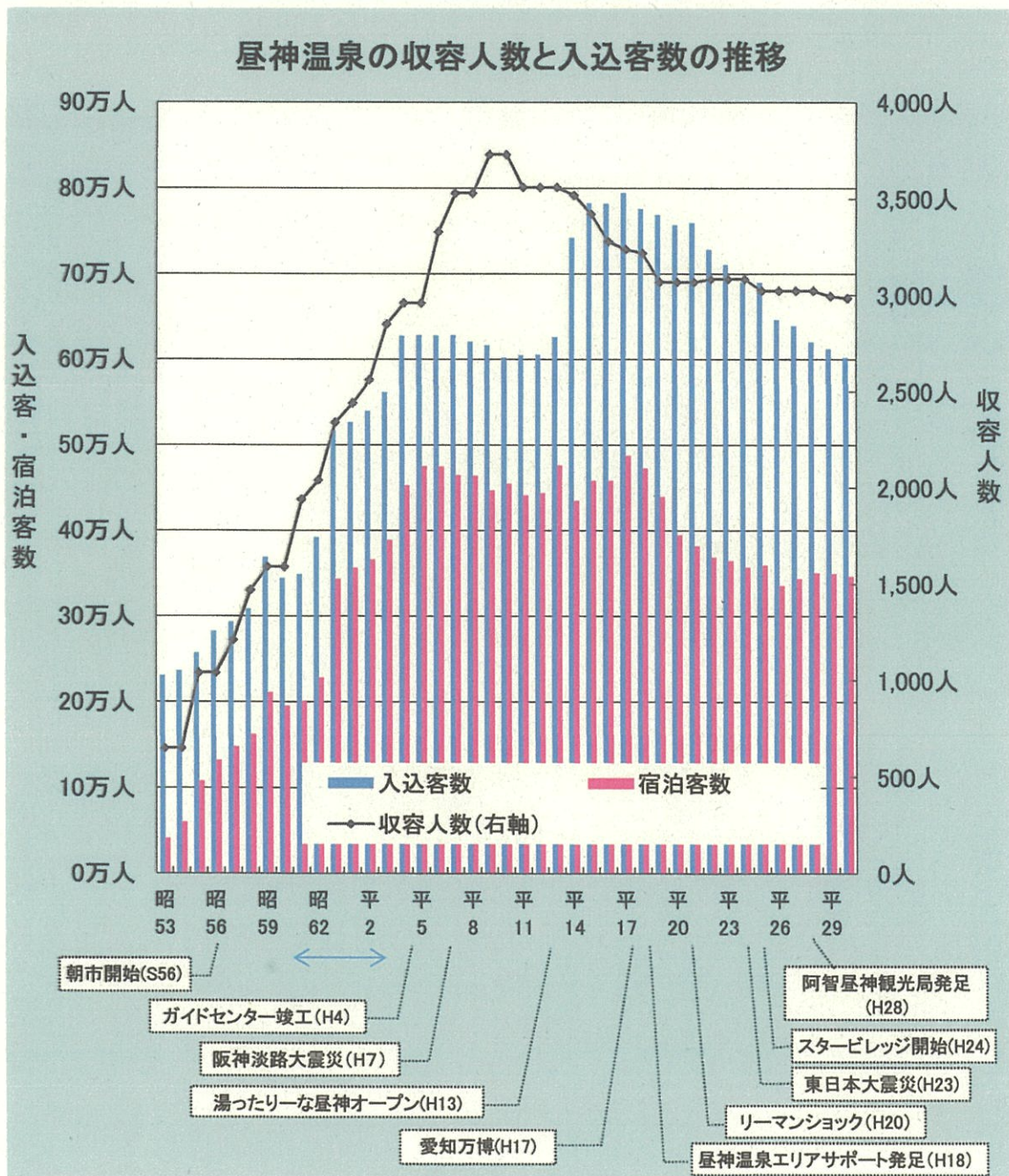
昼神温泉の宿泊者数も堅調に推移し、1993年（平成5年）には年間47万人に達し、温泉全体が活気に溢れました。

しかし、この状況は長くは続きませんでした。

1-2 経済・社会構造の大変革の到来

平成に入って間もなく、拡大し続けたバブル経済が崩壊します。

これを機に、企業業績は一気に悪化。所得の減少により、消費者マインドは冷え込み、日本経済は長い低迷の時代に突入することになります。これまで年々増加し続けた昼神温泉の宿泊者数も頭打ちとなり、2001年（平成13年）の日帰り温泉施設（湯ったりーな昼神）の新規オープン、2005年（平成17年）の愛知万博など、一時的な増加要因はあったものの、その後2008年（平成20年）のリーマンショック等の影響もあり、長期的減少傾向が続くこととなります。



この間、日本にとって価値観を大きく変えることとなる出来事が立て続けに発生します。1995年（平成7年）の阪神淡路大震災、2011年（平成23年）の東日本大震災のほか近年の豪雨による洪水・土砂災害など、日本の根幹を揺るがしかねない大災害が平成以降多発します。日本経済は、その都度大きな打撃を受け、結果として観光産業への影響も計り知れないものとなっています。

また、日本の少子高齢化が叫ばれて久しい状況の中で、2016年（平成28年）2月、これまでの価値観を覆す決定的な事態が現実のものになります。1920年（大正9年）の調査開始以降増加し続けた日本の人口が、2015年（平成27年）の国勢調査の結果、初めて減少に転じたのです。これは、人口は増えることを前提としていた各分野における施策の方向転換を迫るものでした。

今や国は、人口減少を前提とする政策に舵を切り、各自治体に人口ビジョンの作成を求め、地方創生のための各種施策展開やコンパクトシティによる効率的なまちづくりを進めようとしています。

また、産業分野においては人材不足や既存分野の需要拡大が見込めない中で、IoT、AIなど最新技術の活用やイノベーションによる新産業の立ち上げに注力するほか、とりわけ観光分野においては、外需（訪日外国人旅行者）の取り込みを国を挙げて推進しています。2011年（平成23年）に約622万人であった訪日外国人旅行者数は、2019年（令和元年）には過去最高の約3,188万人となり8年間で約5倍に急増しています。

2019年（令和元年）末に中国で症例が報告され、全世界に感染が広がった新型コロナウイルスという未曾有の事態については、今後明らかになる分析や知見に基づき、根気強く対峙していくことが必要となりますが、観光振興において外需の取り込みは、今後も重要な視点であることは間違いありません。

持続可能な地域の実現には、これら時代の変革を的確かつ前向きに捉え、柔軟かつ積極的な挑戦が求められています。

1-3 人口減少社会において昼神温泉に寄せられる期待・果たすべき責務

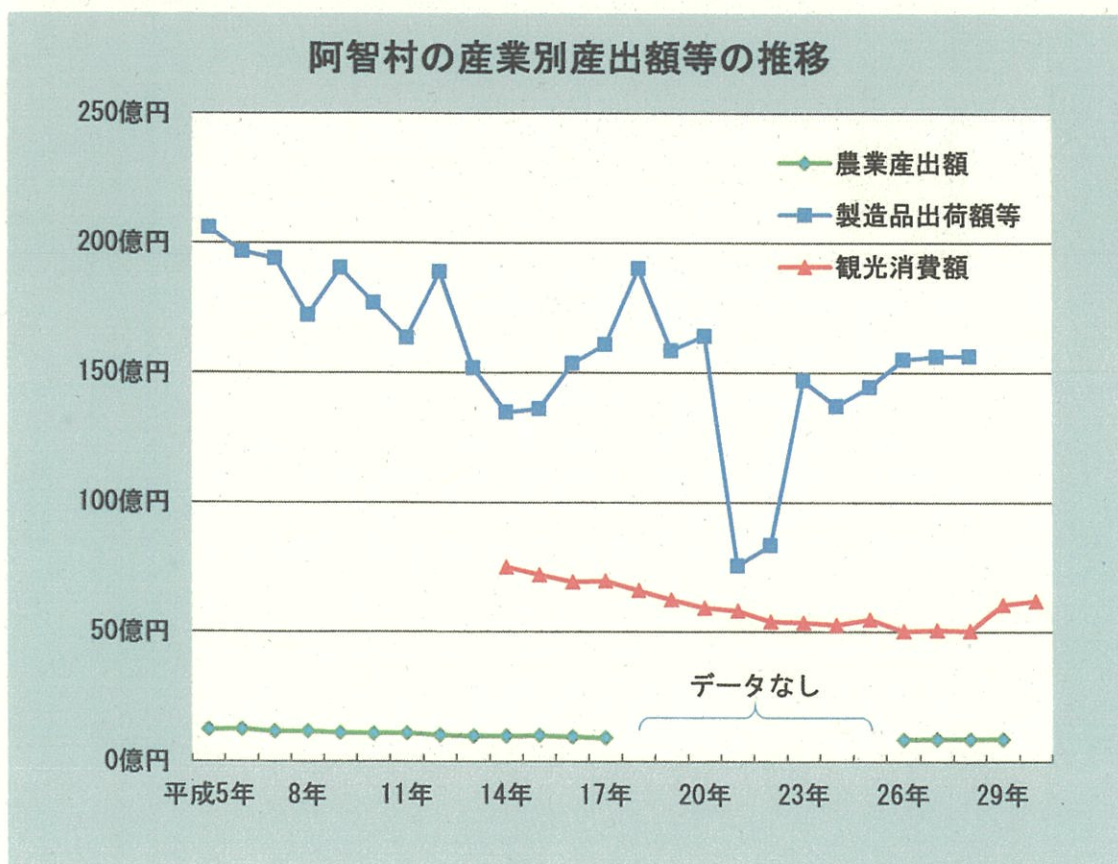
日本が人口減少社会に突入する中で、観光には単なる一産業ではなく、持続可能な地域社会を実現する上で大きな期待が寄せられています。

1-3-1 地域の主要産業としての期待

現在の南信州地域における観光消費額は、年間約 100 億円ですが、うち阿智村が約 60 億円、さらにそのうち 40 億円は昼神温泉が生み出しています。阿智村の工業出荷額 150 億円には及ばないものの、今や昼神温泉は地域経済に大きく貢献する主要産業となっています。

その結果として、地域の雇用創出という視点でも貢献は小さくありません。村内の宿泊施設 21 軒全体の従業者数は、2020 年（令和 2 年）7 月末現在の概算で約 660 人にも及びます。このすべてが村民という訳ではありませんが、2015 年（平成 27 年）10 月の国勢調査における阿智村の全産業の就業者総数が 3,531 人（第 1 次産業 513 人、第 2 次産業 991 人、第 3 次産業 2,005 人、分類不能 22 名）であることを考慮すると、村内の宿泊施設が如何に多くの働く場を提供しているかが分かります。

昼神温泉は、地域の主要産業として、これらの役割を欠かすことなく将来にわたって担い続けなければなりません。



1-3-2 人口減少社会において観光が秘める潜在能力・可能性

人口減少・超高齢社会の到来を経済的視点から考察すると、高齢者人口の増加は介護・医療分野の需要拡大をもたらしますが、これを除けば、人口減少がもたらす必然は、消費の減少による地域経済の縮小・減退です。これを放置すれば、地方経済は衰退の一途を辿ることは容易に想像できます。ではどうすればよいのか。

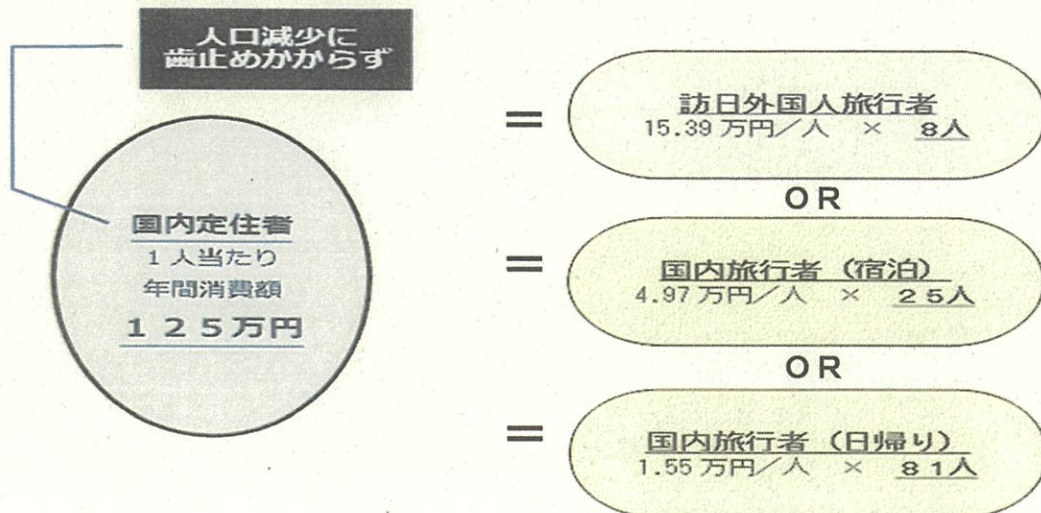
その答えになり得るのが、交流人口、関係人口の増、つまり観光誘客です。観光庁は、定住者1人当たりの年間消費額 125 万円を補うのに、外国人旅行者の場合 8 人、国内旅行者の場合、宿泊で 25 人または日帰りで 81 人の誘客で可能と試算しています。国が「観光立国」の実現を掲げ、ここ数年外国人観光客の誘客を強力に推進する理由はここにあります。

このような視点に立つと、「阿智村」には、幸いにも「日本一の星空・花桃・泉質豊かな昼神温泉など多種多様な資源」を擁した主力産業としての観光があります。

阿智村を将来に渡って持続可能な村にするための鍵は、「観光」そしてその柱である「昼神温泉」が握っていると言っても過言ではありません。

交流（観光）人口増大による経済効果（観光庁資料より）

区 分		人 数	1人当たり消費額
国内定住者(2017年7月1日)		1億2,679万人	125万円/年
訪日外国人旅行者(2017年)		2,689万人	15万3,921円/回
国内旅行者(2017年)	宿 泊	3億2,333万人	4万9,732円/回
	日帰り	3億2,418万人	1万5,526円/回



1-3-3 昼神温泉の行財政への寄与

ここでは視点を変えて、阿智村の財政面における昼神温泉の寄与について整理します。

阿智村の2018年度(平成30年度)決算において、昼神温泉(宿泊施設)由来の歳入の状況については下表のとおりです。

一般会計で約1億4,900万円、下水道事業特別会計及び公営企業会計(上水道事業)でそれぞれ約4,000万円、合計約2億3,000万円を昼神温泉の宿泊施設が納入しており、村は、ここで整理した財源についてその23%を昼神温泉から得ていることとなります。

村の事業運営に必要な財源確保においても、昼神温泉は大きなウェイトを占め、重要な役割を担っていると言えます。

阿智村財政(歳入)における昼神温泉の寄与状況
(平成30年度決算(調定額))

単位:円・%

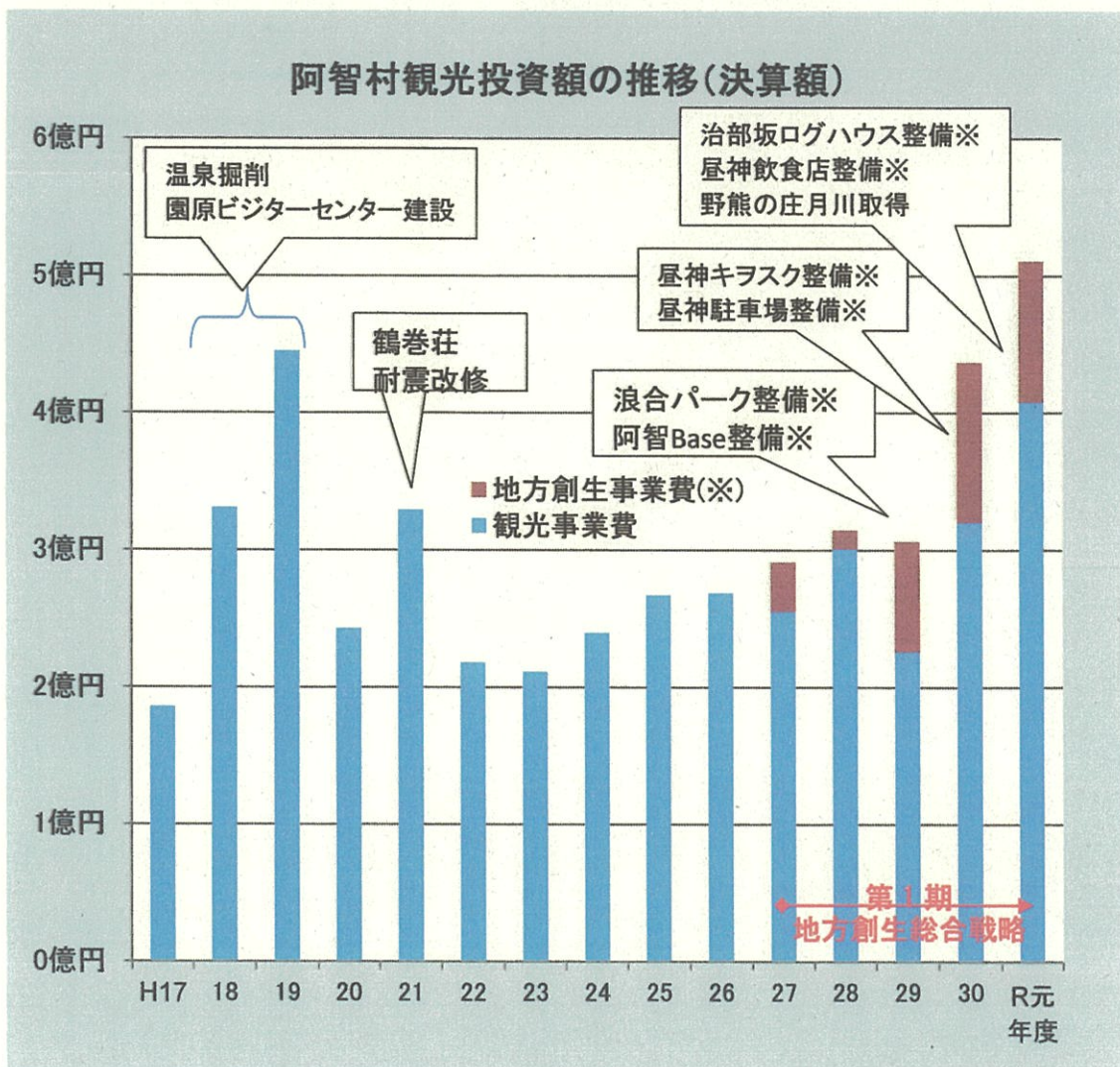
会計区分	歳入額(a)		昼神温泉(宿泊施設) 寄与度 (b/a×100)	
	歳入種別	うち 昼神温泉(宿泊施設)関連(b)		
一般会計				
	法人住民税	63,042,200	3,056,200	4.8
	固定資産税	408,589,884	57,550,800	14.1
	個人住民税	223,438,833	13,839,400	6.2
	入湯税	44,564,100	41,999,850	94.2
	温泉使用料	32,390,784	32,390,784	100.0
	計	772,025,801	148,837,034	19.3
下水道事業特別会計				
	使用料	89,887,387	40,494,865	45.1
	計	89,887,387	40,494,865	45.1
公営企業会計(水道事業)				
	使用料	153,172,932	39,809,102	26.0
	計	153,172,932	39,809,102	26.0
	合計	1,015,086,120	229,141,001	22.6

1-3-4 観光を基軸とした地方創生の展開

これらの観点から、阿智村では2015～2019年度（平成27～令和元年度）の第1期地方創生総合戦略（まち・ひと・しごと総合戦略）において、「地域資源を活かした観光」を主要施策に位置づけ、国の地方創生推進交付金等を最大限に活用した事業展開を推進してきました。2020～2024年度（令和2～6年度）の第2期総合戦略においても引き続き「観光」を基軸とした地方創生の取組を進めていく方針としています。

観光振興により阿智村に多くの来訪者を迎え、地域内消費を増やすことが、新たなビジネスや雇用を生み出すことに繋がります。その結果として、人口減少下にあっても、持続可能で健全な地域社会を実現するという“相反するミッション”の達成が可能となります。

人口減少社会を迎えた現在、昼神温泉は経済のみならず、地域社会全体の牽引役として、これまで以上にその責務を背負っていかねばなりません。



1-4 村民福祉としての昼神温泉の役割

1-1～3 では、主に経済・財政面から見た昼神温泉の役割について整理しましたが、一方で、昼神温泉は、村民の福祉や健康増進を支える役割を担ってきました。

1976年（昭和51年）に開業した阿智村公営保養センター（鶴巻荘）は、村民の保養のための宿泊施設として昼神温泉の黎明期を支え、今に至るまで変わらず多くの村民に親しみを持ってご利用いただいています。

さらに、2001年（平成13年）オープンした温泉利用公営施設（湯ったりーな昼神）は、日帰り温泉施設と温泉プールを併設し、村民の憩いの場であると共に、健康づくりの場も提供してきました。

これらの施設は、村民生活に温泉文化を根付かせ、村民の日常に健康や心のゆとりをもたらす存在であったとともに、何よりも、身近な場所で気軽に温泉浴が楽しめるという、この上なく豊かで幸せな暮らしを村民にもたらした功績は、大きなものがあります。

昼神温泉の将来を考えると、村民に豊かさをもたらす昼神温泉という価値を再認識し、村民に愛され、村民の日常に癒しを供与できる環境を引き続き整えていかなければなりません。

第2章 昼神温泉の現状と課題

第2章 昼神温泉の現状と課題

昼神温泉の将来を考えると、大きな社会構造の変化、技術の進展、価値観の多様化を踏まえた上で、昼神温泉の現状と課題を整理し、昼神温泉のいまを広く共有することが必要です。

2-1 社会・経済情勢、価値観の変容

2008年（平成20年）のリーマンショックによる世界的な経済危機のあおりを受けた日本経済でしたが、その後、アベノミクスなどの政策展開により、景気は持ち直しの局面を迎え、表面上は緩やかな回復を続けてきました。企業業績は改善し、求人も伸びています。しかし一方で、所得格差は広がり、地方では景気回復を実感できない状況が続いています。

また、人口減少、超高齢社会が現実のものとなり、消費の縮小、人材不足による経済活動の減退、医療・介護や社会保障費の負担増など、将来の日本の土台を揺るがしかねない構造的課題を抱えています。

一方で、技術革新、デジタル化、通信技術の進展により、あらゆるモノがインターネットを介して繋がり、情報端末1つで、誰でも、何処でも、自由に、必要な情報にアクセスし、活用し、発信できる社会が到来しました。さらにAI技術の進展により、これまで人間にしか担えなかった役割を機械が取って代わる時代の到来も目前です。これら、社会情勢が大きく変革し、日々技術革新が進み、人々の価値観が多様化する時代を迎え、我々は常にアンテナを高く張り、あらゆる変化や価値観に対し間口を広く構えながら、変化を受け入れ、柔軟な発想、新たな志向により昼神温泉の将来を考えていかねばなりません。

2-2 多様化する価値観・需要とのミスマッチ

多様化が進む観光客の需要に対し、提供側にはそれに適した環境を用意し、需給のバランスの取れた効率的運営が求められますが、昼神温泉では、この需要に十分応えられていない現状があります。

2-2-1 団体から個人へ（旅行単位の小規模化・単泊化）

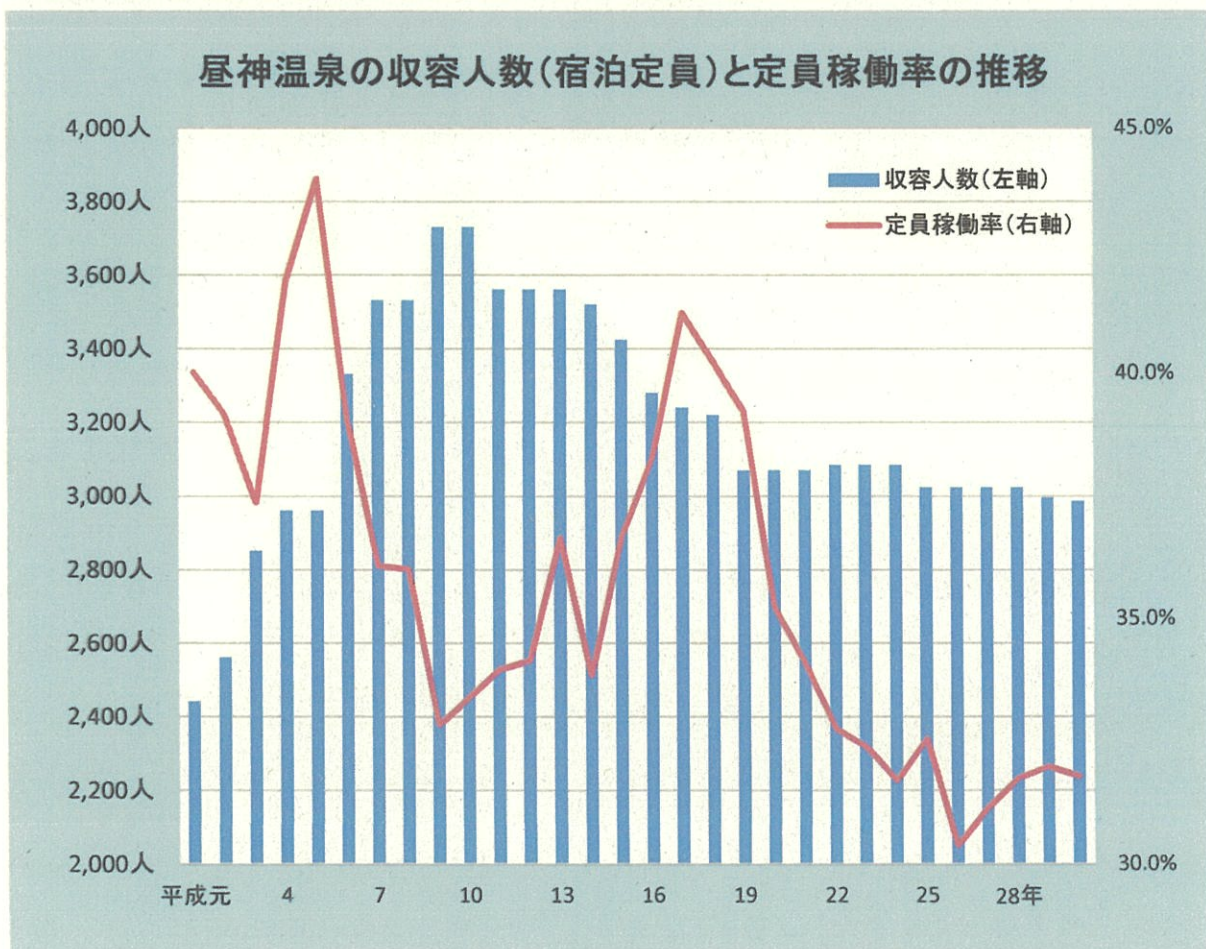
近年、国内の旅行スタイルが、大きく変化しています。

かつて、昼神温泉が多く受け入れた宴会を伴う団体旅行は減少し、主流は少人数の個人旅行に切り替わっています。また、気ままな一人旅も増える傾向にあります。

その結果、2005年（平成17年）には41.2%あった宿泊定員に対する稼働率は、2018年（平成30年）は31.8%まで落ち込んでおり、減少する傾向が続いています。各施設では、受け入れ態勢やコスト削減等の取組を進めていますが、現況は、施設が持つ収容能力を十分に活かせず、本来得られるはずの利益を逃してしまっている状態といえます。

また、団体客が主流であった当時は、その客層は中京圏の中高年が多く、連泊やお土産などで一定の売上げを見込める傾向にありましたが、客層が若い世代の個人に移行するのに伴い、一泊が主流となり、大きなお土産を好まない傾向が顕著になっています。

効率的な収益構造とするには、団体客前提でなく個人客受入を重視した施設構造・運営形態への転換が必要です。



2-2-2 訪日外国人旅行者の急増

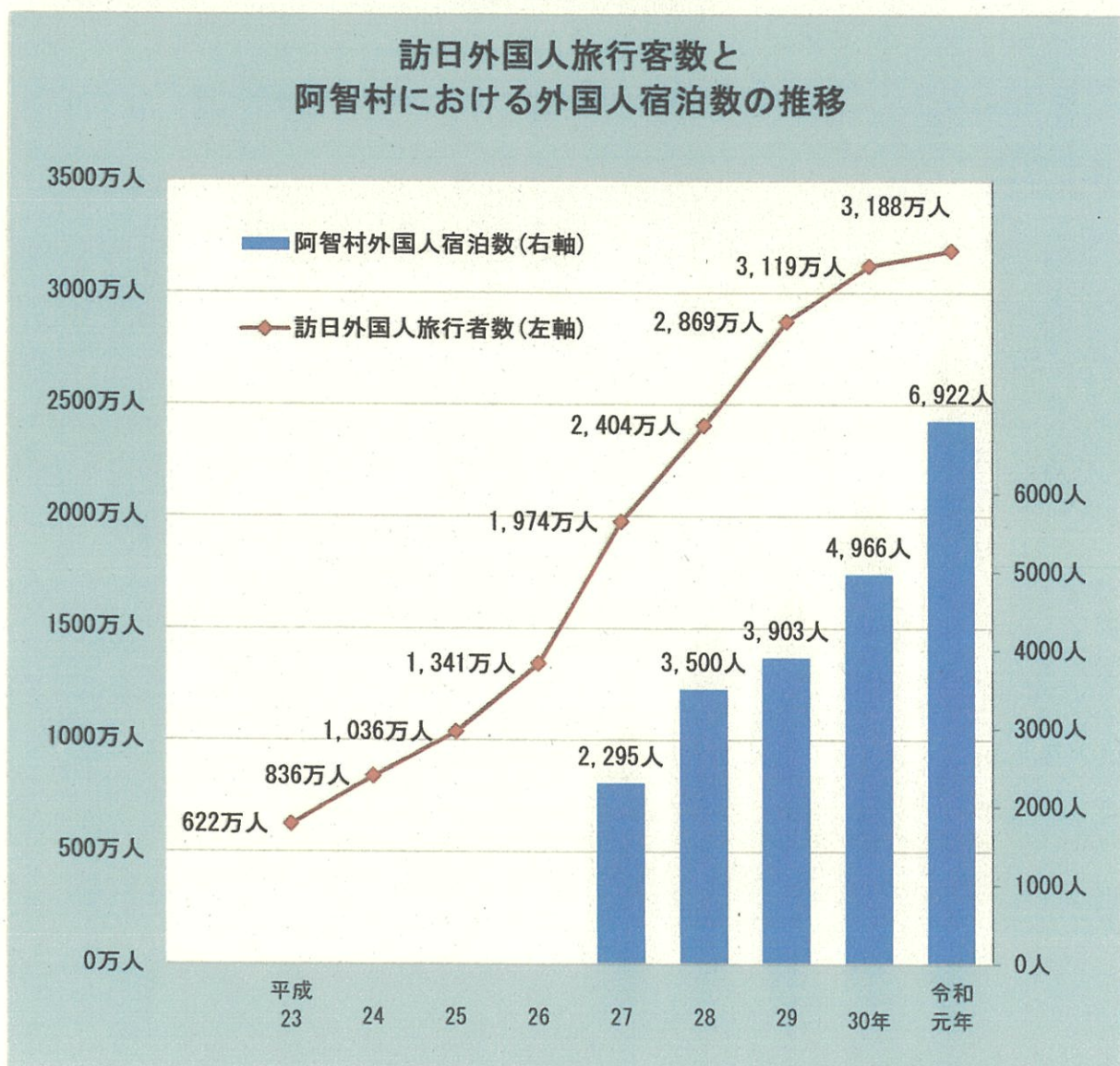
国策による訪日外国人旅行者（インバウンド）の誘客促進については1-3に述べたとおりです。

2019年（令和元年）のラグビーワールドカップ、1年延期され2021年（令和3年）の開催が調整されている東京オリンピック、2025年（令和7年）の大阪万博と世界規模のイベント開催が続く中、世界における日本文化への注目が一層高まることが想像されます。

一方で、阿智村におけるインバウンド受入実績は年を追って着実に増加しているものの、具体的な環境整備はまだこれからというのが正直なところです。

この度の新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、インバウンド需要を直撃しており、従前の入り込みに戻るには相当の時間を要するものと推察されますが、その先（After コロナ）には、再び多くの外国人旅行者の訪日を見据えた戦略が不可欠であることは間違いありません。

将来、確実に戻り、拡大するであろう外国人消費の巨大市場を逃してしまうことのないよう、多くの外国人旅行者に安心して訪れていただける環境を整える努力が求められます。



2-2-3 “もの”から“こと”へ

観光客の消費動向は、これまでの“もの”重視から“こと”重視へと移行しつつあります。国内旅行者は、既に多くの観光地を訪れてきた経験から目が肥え、どこにもある“もの”を求めるのではなく、そこでしか味わえない“こと（体験）”を求めるようになりました。また、外国人旅行者も訪日経験が多くなるに比例し、整備された有名な観光地よりも日本本来の歴史・文化・風土を体感できる場所を求める傾向にあるといわれます。

この地域にしかない文化や風土と連携した多様な体験型観光を提供し、一度だけでなく、2度、3度と訪れてもらうしくみが求められています。

2-2-4 情報源・判断材料の多様化

今や宿泊予約の多くは、ネットを介して行われており、そのツールはPCからスマートフォンへと変化し、今や利用者の判断基準は、提供側が発信するホームページやブログに止まらず、利用者個人が発信するSNS等による口コミが大きなウェイトを占めるに至っています。

これら多様なツールやコンテンツを有機的に結びつけた効果的な発信やこれらの情勢に着目した戦略的アプローチが重要となっています。

2-2-5 若者の車離れ

世の中がものや情報に溢れ、人々の趣向や価値観が多様化する一方で、将来に対する不安を抱え、特に若者世代は合理的かつ現実的な価値観で消費行動をとる傾向が強まっています。2-2-1でも触れた単泊化や土産品販売が伸びない要因もここにあります。若者が維持費の嵩むマイカー所有を避ける（所有欲がない）傾向、いわゆる車離れが進んでいるといわれます。

これら若者の判断には、車はあくまで移動手段と捉え、必要なときは借りればよいという合理的思考が働いているものとしても、いつでも好きなときに自由に使える移動媒体を持たない若者を観光に向かわす動機づけは、以前に比べ確実にハードルが上がっています。増してや現状で公共交通機関の接続に課題がある昼神温泉にとって、若者の来訪が増えているとはいえ、憂慮すべき事態と言えます。

2-3 社会的責任・要請の高まり

出湯後半世紀を経る歴史の中で、社会生活における価値基準は大きく変化してきました。温泉地の経営を持続させるためには、環境保全、福祉・人権意識の増進、防災対策等の社会的要請に高いレベルで応えていくことが求められます。

2-3-1 環境への配慮

2019年(令和元年)12月に開催された第25回気候変動枠組条約締約国会議(COP25)に報告されたレポートでは、世界の年平均気温は年々上昇が続き、2019年(令和元年)は2016年(平成28年)に続き過去2番目の高さとなる見込みが報告され、地球温暖化に歯止めがかからない状況が明らかになりました。温室効果ガスの削減目標の引き上げが焦点になる中、先進各国の取組の不十分さ、中でも日本の石炭火力発電に対して厳しい評価がされたところですが、とりわけ“日本一の星空”など美しい自然を標榜する阿智村は、これらを保全するため、環境問題への高い意識を保持しなければなりません。

日本で近年多発する台風や豪雨による災害も地球温暖化が原因とされており、2019年(令和元年)の台風19号による直接の被害は免れた昼神温泉ですが、大きく被災した長野県に所在する観光地として、温暖化対策をはじめとする環境問題に真摯に向き合っていかなければなりません。

2-3-2 福祉・人権意識の高まり

(バリアフリー・ユニバーサル・ジェンダーフリー)

持続可能な社会の実現のため、老若男女、病気や障害の有無、思想や宗教に左右されず、社会全体が多様な価値観を認め、尊重し、誰もが尊厳をもって自分らしく生き、暮らし、働ける社会の実現が叫ばれています。

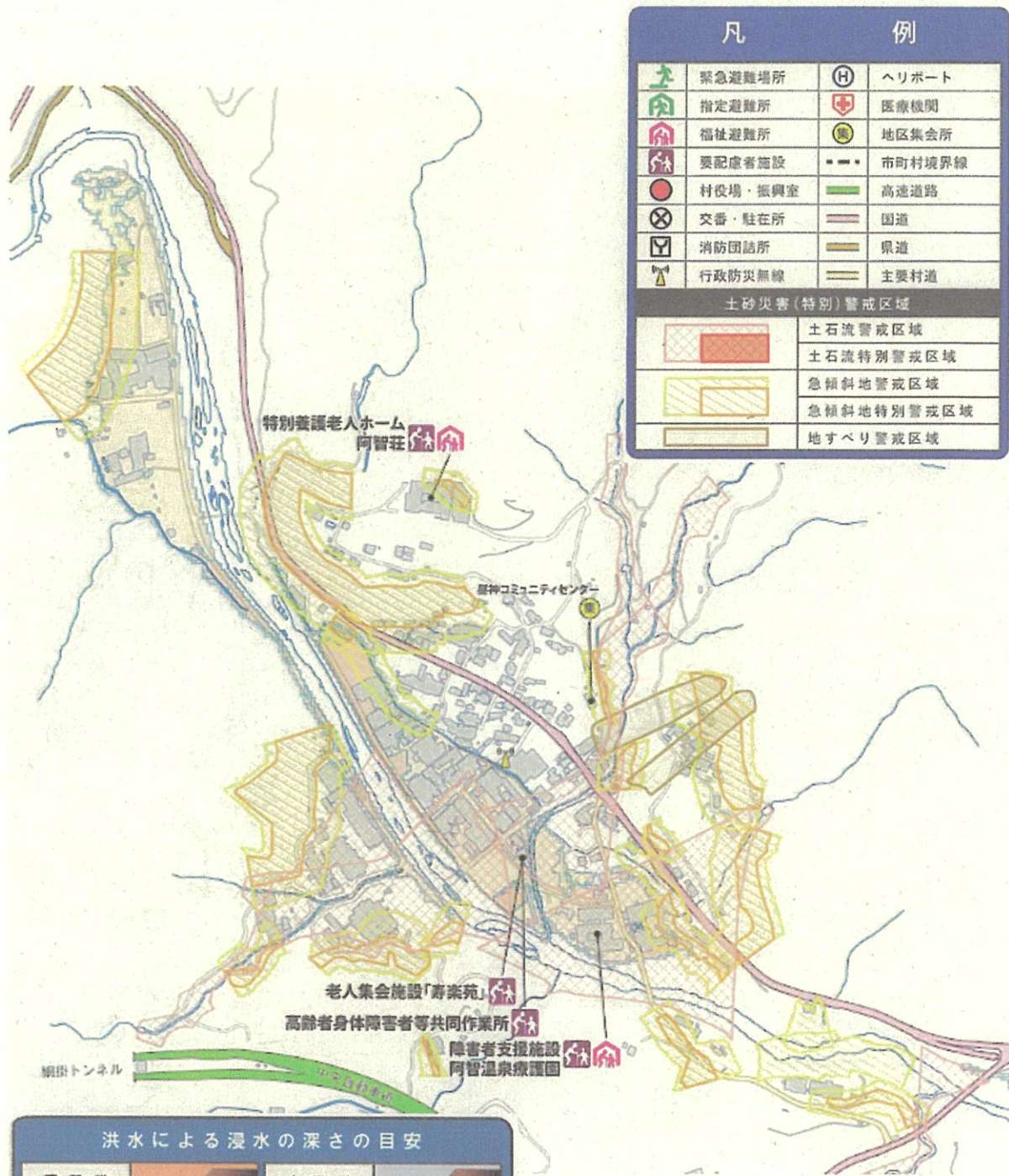
地域経済を牽引する昼神温泉の社会的責任として、高い人権意識のもと、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ジェンダーフリー、多文化共生など、高い水準でハード・ソフトの両面から備えていく必要があります。

2-3-3 防災対策・災害時対応の必要性

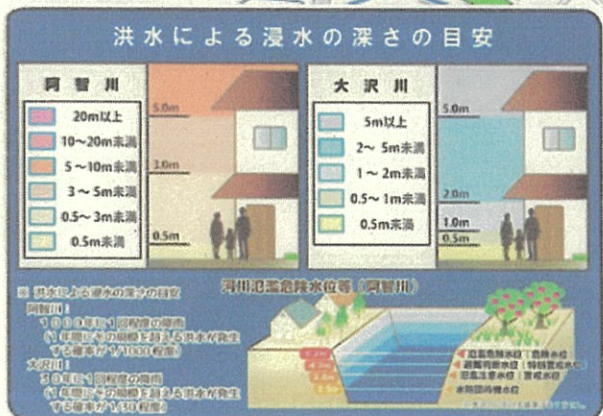
2-3-1でも触れた近年多発する豪雨は、これまでの経験による想定を遙かに超えるものとなっています。阿智村も、過去には阿智川の氾濫など何度も大きな水害を経験していますが、2019年(令和元年)7月に県が示した新たなハザードマップでは、1,000年に1度の大雨時に昼神地区で5mの浸水が想定されています。また、東海地震の震源域から100km圏域に位置し、巨大地震の発生による被災も懸念されます。

堤防、橋、道路等、社会インフラの備えとともに、旅館・ホテルにおいても被災を前提とする備えが必要です。とりわけ繁忙期には、全体で2,000人以上に及ぶ昼神温泉の宿泊者や従業者をいかに避難させるかは大きな課題です。温泉全体を見据えた抜本的な災害対策が求められます。

昼神地区のハザードマップ



凡		例	
	緊急避難場所		ヘリポート
	指定避難所		医療機関
	福祉避難所		地区集会所
	要配慮者施設	---	市町村境界線
	村役場・振興室		高速道路
	交番・駐在所		国道
	消防団詰所		県道
	行政防災無線		主要村道
土砂災害(特別)警戒区域			
	土石流警戒区域		土石流特別警戒区域
	急傾斜地警戒区域		急傾斜地特別警戒区域
	地すべり警戒区域		



2-4 現実のものとなりつつある経営危機

旅館・ホテルは、サービスを提供し、一定の成果を生み出す装置産業であると考えられており、客の多い少ないにかかわらず一定のコストがかかり続けます。つまり、一定量の集客を確保できなければ維持していくことはできません。

昼神温泉は、出湯から半世紀が経過し、経営上の課題が浮き彫りになりつつあります。

2-4-1 施設の老朽化

昼神温泉の旅館やホテルの多くは、昭和50年代から平成初期にかけて建てられたため、老朽化が進んでいます。

2-2-1で述べたとおり、旅行単位の小規模化等の需要に対応が困難な状況も見られ、大規模な修繕やリニューアルを迫られています。売上げの減少傾向が続く中で、対応は容易ではありません。

2-4-2 慢性的な人手不足

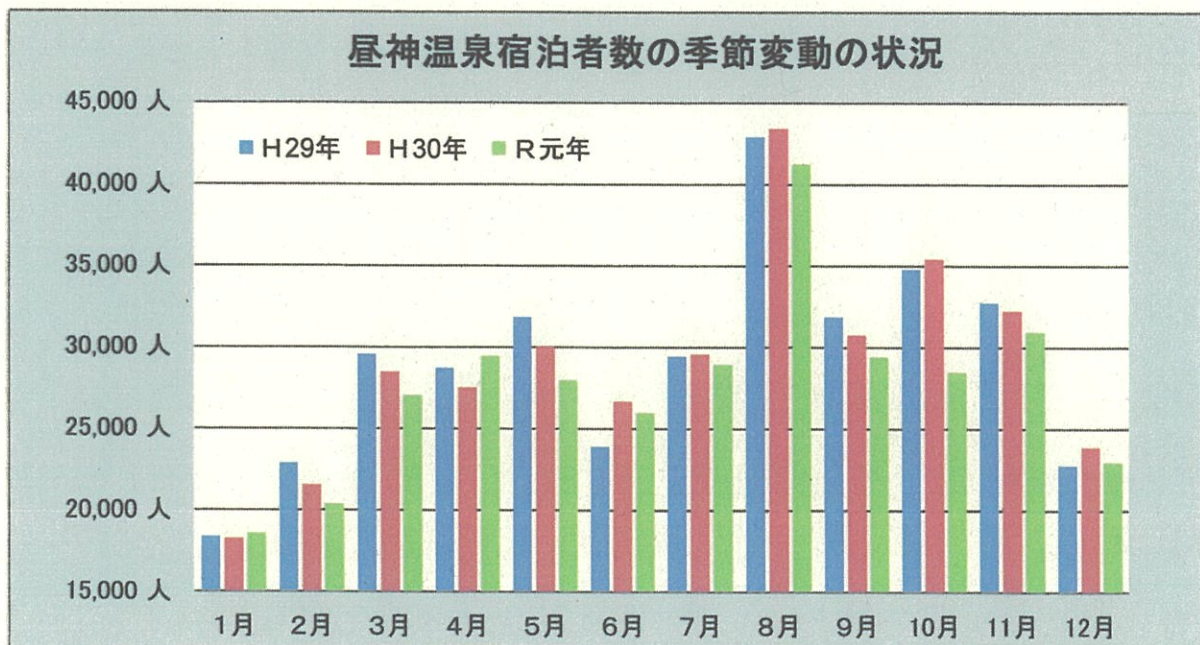
また、旅行単位の少規模化は、結果として個別対応の増加を招き、手間が増えることとなります。もともと早朝から深夜に及ぶ不規則な労働であることで人材確保に苦慮している中、人口減少、特に働き盛り世代の減少は恒常的な人手不足に拍車をかける深刻な事態といえます。困難となっている繁忙期の非正規雇用者の確保は尚更です。

人手不足は、結果的に従業員に長時間労働を強いることに繋がり、近年叫ばれている働き方改革とは逆行するものです。従業員の雇用環境としても大きな課題です。

2-4-3 繁忙期と閑散期の存在

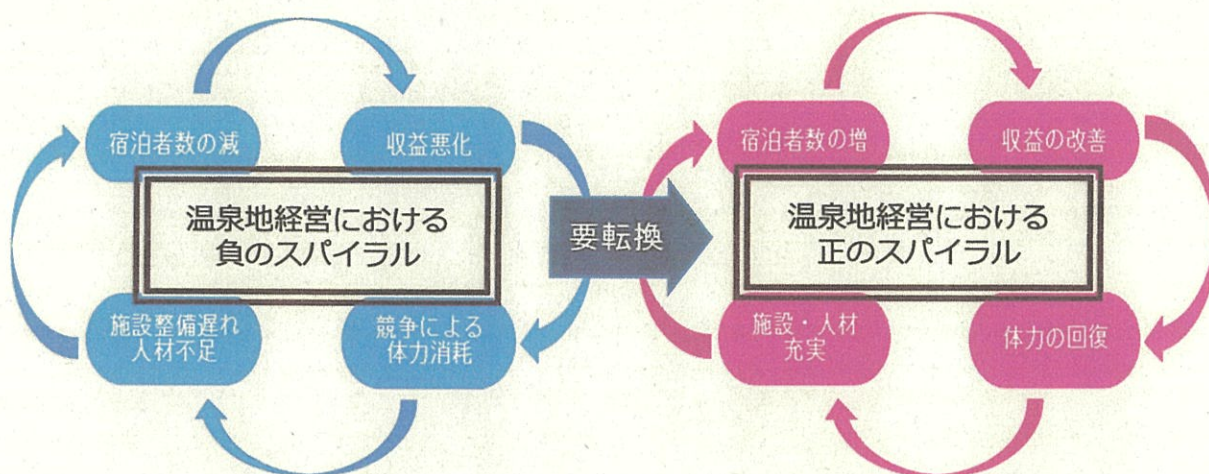
昼神温泉は、春から秋にかけては比較的多くの来訪者がある一方、冬場の集客に苦戦しており、安定した経営や人材確保に苦慮する要因にもなっています。

観光地には、繁忙期と閑散期が生ずることは致し方無いことではありますが、このギャップをできる限り少なくし、通年での安定した集客を図っていくことが大きな課題となっています。



2-4-4 負の連鎖

現在の昼神温泉の状況は、長期的な宿泊者数の減少傾向に加え、人口減少が収益を圧迫し、施設を埋めるための競争により体力を消耗し、施設の老朽化や需要の変化に対応する施設整備の遅れや人員不足を招き、その結果、施設稼働率は下がり、更なる収益の悪化を招くといった負のスパイラルの渦中にあり、この連鎖を断ち切らなければなりません。



2-4-5 《新たな試練》未知の感染症「新型コロナウイルス」への対応

2019年(令和元年)末に中国で症例が報告され、2020年(令和2年)にかけて全世界で感染が拡大している新型コロナウイルスは、未だ収束の糸口も見えず、観光産業をはじめ全産業に渡って、これまでに経験したことのない経営上の危機をもたらしています。

国は、2020年(令和2年)4月7日には緊急事態宣言を発令するとともに、過去に例のない緊急経済対策等を打ち出し、国を挙げて収束に取り組んでいます。とりわけ観光産業への影響は甚大で、終わりの見えない闘いに現場の不安は募る一方です。

村でも、いち早く「感染阻止宣言」を行うと共に矢継ぎ早に緊急経済対策を講じ、事業者の支援に当たったところですが、全世界的な危機を前に、一自治体や一温泉地の取組で対処できる状況を遥かに越えた事態となりつつあります。

この際、全人類一丸となり、この新たなウイルスに忍耐強く対峙し、難局を乗り越えなければなりません。Withコロナの時代を踏まえ、これまでの分析や今後明らかになるであろう知見・検証結果等に基づく備えを行うと共に、新たな生活様式への転換、さらに新たな価値観による観光モデルの構築に挑んでいかねばなりません。

2-5 昼神温泉浮上の光明

本章で述べてきた昼神温泉の現状と課題は、その生い立ちや歴史に違いはあるものの、その多くは、全国の温泉地にも共通する課題といえます。多くの温泉地が宿泊者数の減少に苦しみ、その再生に知恵を絞っています。しかしその多くが、決定打を見いだせない状況にあるというのが正直なところでしょう。

幸いにも阿智村には、昼神温泉のほかに、全国に認知される観光資源を所有し、これら資産を活用した成功体験があります。これらが昼神温泉浮上の光明になるものと期待されます。

2-5-1 日本一の花桃の里

4月中旬から5月上旬にかけて阿智村一帯は紅・白・桃の三色に染まります。木曾から清内路を超えて伊那谷を結ぶ国道256号線は「はなもも街道」と呼ばれ、園原ICにほど近い月川温泉郷は、5千本以上の花桃が咲き誇り「日本一の桃源郷」と言われています。

ここに至るには、静かな山里を花でいっぱいに行こうと一本一本地道に植え続けた先人や地域の情熱がありました。30年にも及ぶ地道な取組の結果、今や阿智村全体で約1万本もの花桃が植えられ、阿智村のブランドとして広く認知されるに至りました。開花時期に合わせて行われる花桃まつりには、今や20万人もの人々が訪れます。多くの住民の長年の協働が、唯一無二の地域ブランドを産み出した成功事例であるといえます。

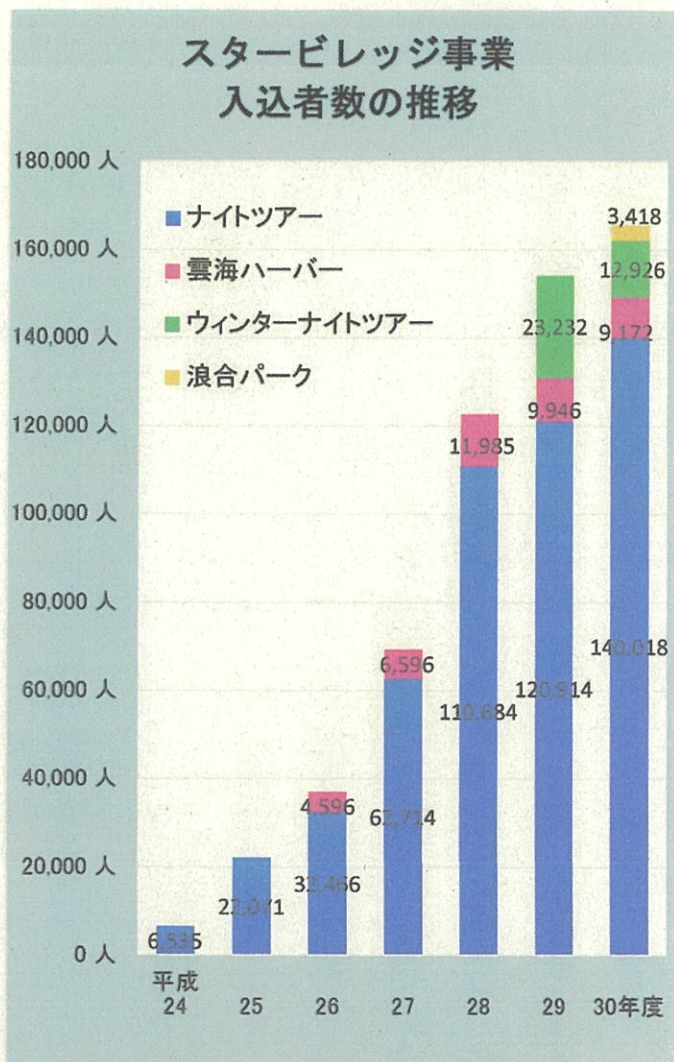


2-5-2 スタービレッジ

阿智村は、環境省の星空継続観察で認定された「日本一の星空」に着目し、2012年（平成24年）から行政、観光事業者、商工会等が一体となった「スタービレッジ事業」に力を入れてきました。

この事業の中心となるナイトツアーの集客は、当初は年間約6千人程のものでしたが、今や14万人もの誘客をもたらす商品に成長し、「阿智村＝日本一の星空」との認知を日本中に拡大させる効果をもたらしています。この取組は、地域に眠る資産を掘り起こし、新たな体験型観光を創出した成功事例として全国から注目されています。

さらに、年号が令和に変わって間もない2019年（令和元年）5月には、その効果を高めるべく世界記録に挑み「同時に天体観測を行った最多人数記録：2,640人」の樹立に成功しました。阿智村は「日本一」に加え「世界一」の称号を獲得し、世界にアピールする手段を新たに手にすることができました。

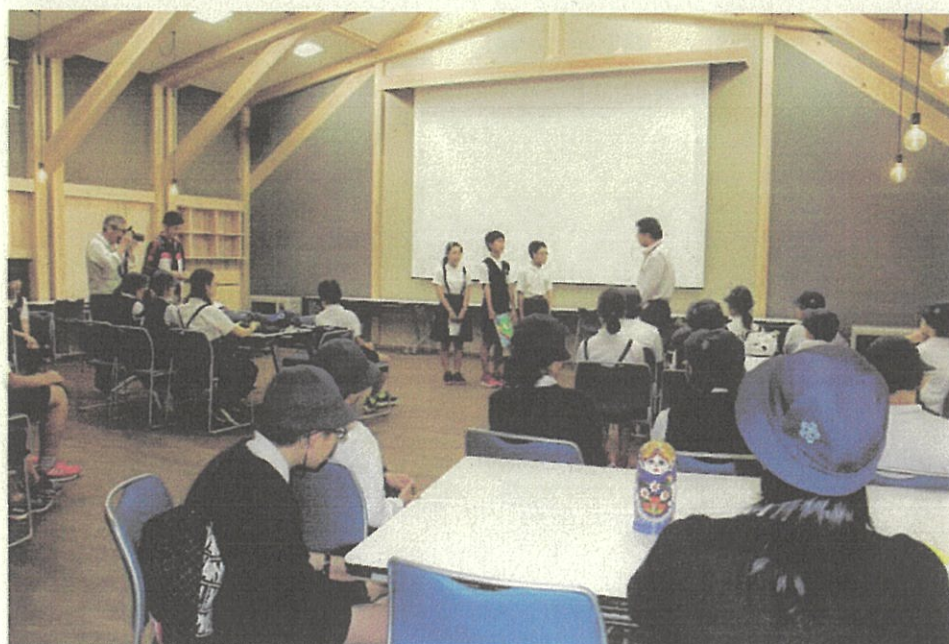


2-5-3 満蒙開拓平和記念館

満蒙開拓平和記念館は、かつて国策として進められ27万人もの人々が旧満州へ渡った「満蒙開拓」の史実を、風化させることなく後世に伝えるための国内唯一の施設として、2013年（平成25年）4月にオープンしました。多くの移民を送り出した当地域の多くの人達の尽力により実現に至ったものです。

オープン当初から、修学旅行や各種団体の研修などの利用もあり、見込みを大きく上回る方々に来館いただき、満州国への移民の歴史から平和の大切さ等を学んでいた場となっています。

当該施設の本来の目的は“観光”とは一線を画すものですが、今や県内外から阿智村を訪れる方々の目的のひとつとなっており、昼神温泉への誘客を推進する上でも、大きな存在となっており、今後も連携が期待されます。



第3章 リニア新時代に向けて

第3章 リニア新時代に向けて

前章では、昼神温泉の現状と課題について整理しました。

これまで私達は、昼神温泉の将来を見据えた明確なビジョンを示して来られませんでした。

その結果、関係者間の課題共有がされず、官民共に温泉郷全体の将来を見据えた総合的なインフラの整備や計画的な投資に注力するに至らず、温泉郷全体の魅力創出が進まなかっただけでなく、観光需要の変化に柔軟に対応してこなかったミスマッチが顕在化しています。この背景には、行政は宿泊事業者任せ、宿泊事業者は行政頼りの気風が生じていたことは否めません。この際、将来に向けたビジョンを明確にし、それぞれが当事者意識を持って臨んでいくことが必要です。

過去には、村の要請により昼神温泉旅館組合が「昼神温泉の将来の発展方向と環境整備」について研究を行い、1995年（平成7年）に「昼神温泉マスタープラン」として報告書がまとめられた経過があります。しかし、関係者の合意が得られずに棚上げされ、これが実行に至ることはありませんでした。

今回、この先の昼神温泉のビジョンを描く上で私達は、同じ轍を踏む訳にはいきません。地域を挙げて取り組むべき南信州地域の歴史的転換点が目前に迫っています。

リニア中央新幹線開通に代表される超高速交通時代（リニア新時代）の到来です。

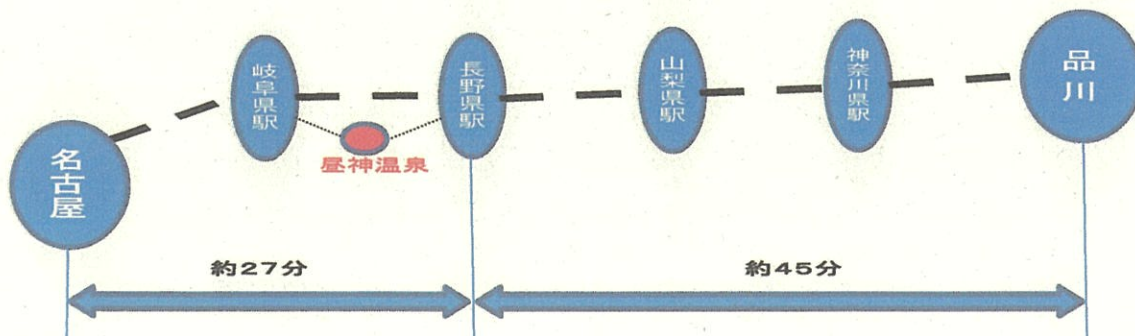
3-1 目前に迫る千載一遇のチャンス（南信州の転換点）

2027年（令和9年）を目標とするリニア中央新幹線の開業により東京都品川駅から長野県駅（飯田市）まで約45分、名古屋駅からは約27分で結ばれ、首都圏、中京圏からのアクセスが飛躍的に改善されます。

同時期の開通が見込まれる三遠南信自動車道との相乗効果により、人と物の動きを活発化させる千載一遇のチャンスです。南信州地域にとっては、中央道の開通以来のインパクトをもたらすものです。

また、昼神温泉は、長野県駅だけでなく、岐阜県駅（中津川市）から見ても、両駅の丁度中間に位置することになり、そのメリットはより大きなものとなります。

リニア中央新幹線開通時の所要時間



3-2 裏腹にある地域活力喪失等の懸念

一方で、首都圏等とのアクセスが容易になると、かえって人口流出を加速し、過疎化やコミュニティの消滅など地域活力の喪失につながるとの指摘があります。また、これまで移動に時間を要したからこそ昼神温泉が宿泊地として選択されてきたとの分析もできなくもありません。

さらに、関東圏～中京圏がリニアにより結ばれ1時間圏内となれば、これまで昼神温泉を選んでいた中京圏の方々にとっては、これまで遠いと感じていた北関東や東北までもがその選択に入ることとなります。昼神温泉は、周辺県やリニア沿線地域のみならず、日光、那須塩原など、名だたる温泉地の中で輝きを放てなければ、逆に宿泊客の減少を招く結果にもなりかねません。

このような負の結果を招かぬよう、我々は、高速交通ネットワークのメリットを最大限引き出す取組を進めなければなりません。

3-3 時代の潮流を捉えた的確・積極的な戦略の必要性

第2章で述べたとおり、情報化やデジタル化の急速な進展、ライフスタイルや価値観の多様化に伴い、今日の観光スタイルは、統一的・画一的で“もの”重視の団体旅行から、自らの選択・計画による“こと”（体験）重視の個人旅行へとシフトしつつあります。また、訪日外国人旅行者の増加は止まるところを知りません。

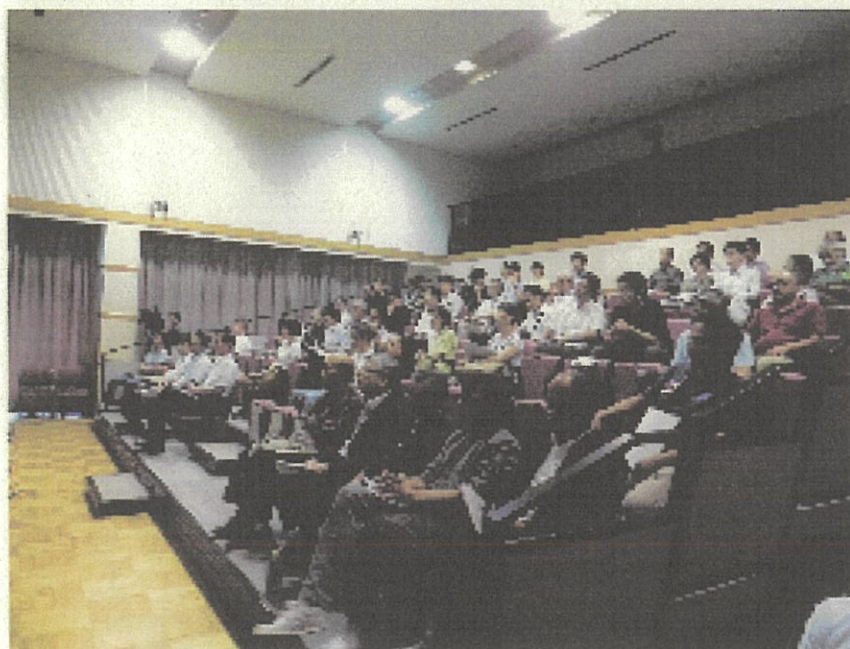
これら、時代や社会の潮流に加え、地域にとってのリニアという千載一遇のチャンスを的確に捉え、昼神温泉は負のスパイラルから脱却しなければなりません。昼神温泉が通過地ではなく目的地として「選ばれる存在」になるため、地域の魅力や資源を活かした積極的な戦略が求められています。

3-4 昼神温泉将来構想検討委員会による答申

これら問題意識から2015年（平成27年）9月、昼神温泉の将来のあり方を議論するため関係者等で組織する昼神温泉将来構想検討委員会（委員長：上原 力氏）が発足し、3年間に渡り昼神温泉のランドデザインについて検討がなされました。2018年（平成30年）11月にはこれら協議内容を取りまとめる形で、「昼神温泉のまちづくりに関する答申書」が村に提出されました。

また、村では、答申書の内容を広く知っていただくため、2019年（令和元年）9月14日、検討委員会及び阿智昼神観光局との共催により昼神温泉将来構想シンポジウムを開催しました。村民の皆様にも参加いただき、昼神温泉の現状や将来に向けて担う役割等について議論を深めていただきました。

屋神温泉将来構想シンポジウム（令和元年9月14日開催）の様子



昼神温泉将来構想検討委員会
昼神温泉のまちづくりに関する答申書
(2018年(平成30年)11月)

はじめに

昼神温泉将来構想検討委員会は、旅館経営者・観光事業者・地元住民・有識者等で構成する委員会で、村長の諮問機関として平成27年9月に発足して以来、温泉街のハード整備（ランドデザイン）を中心にまちづくりの検討を重ねてきました。日本一の星空の下、日本一美しく世界に誇れる温泉地を目指して、協議と現地の状況把握、他地域の視察・研究などを複数回重ね、この度、温泉街整備における基本的な方向をまとめましたので答申をします。

まちづくりの意義（なぜ今まちづくりが必要か）

今後30年で、地方を取り巻く環境、社会情勢、経済状況は大きく変化することが予想されます。これらの変化に速やかに対応でき、なおかつ阿智村・昼神温泉が星空のように輝く地域となって生き残れるよう、他地域に先駆けて魅力あるまちづくりを進める必要があります。

- ▶ リニア中央新幹線の開業は、都心からの移動時間を短縮し人々の交流を活発にさせることが期待されますが、移動時間が短くなる分、地域に長く滞在させるためのコンテンツを充実させる必要があります。また、都心への人口集中で地方の過疎化や消滅が加速するおそれもあり、地域として生き残るためには、ビジネスが増える・生まれる環境を整えて働き暮らす場所をつくり、交流人口・定住人口の増加を図る必要があります。
- ▶ 訪れる人に満足のおもてなしをするためには、ここで働き暮らす人々が満足できる地にしなければなりません。阿智村・昼神温泉で働き暮らす人々の生活の利便性向上と、憩いと安らぎを与える温泉街づくりをし、誰もが満足できる場所“住んでよし・訪れてよし”の地とすることが望まれます。
- ▶ 人口の減少に伴い、国内旅行者の数（主に宿泊者）は減少する予測もあります。継続して阿智村を訪れる人を確保するには、他地域との差別化を図り、リピーターやコアなファンを増やす魅力づくりが必要です。海外からも注目され、世界中から人が集まる場所となるよう、地域ブランドを活かした整備が必要です。
- ▶ VR（バーチャルリアリティ）の技術向上が進み、あらゆる“もの”“こと”がその場所へ出かけなくてもできる時代が到来します。この地域を訪れる理由として、美しい自然など“本物”が残り、そこに暮らす人の手により守り育てられていることが貴重なものとなります。
- ▶ 環境への意識はますます高まり、環境保全やエコ活動は常識なものとなります。美しい星空の観られる阿智村の自然環境は、今後更に貴重なものとなるため、ありのまま・そのまの自然の姿を活かした整備で、今の環境を維持していくことが必要です。

昼神温泉の将来像（基本的な方向と整備内容）

昼神温泉の将来像は、長期滞在のできる温泉地（2泊以上の宿泊地）を目指し、温泉街で歩き、味わい（食べ）、入浴や自然体験などができる心と体を癒す空間にすることを基本的な方向として温泉街整備を進めることを希望します。また、この地域の滞在中心地として、昼神温泉を基点に阿智村内や南信州地域を周遊するための拠点とすることも必要です。

▶ 歩いて楽しめる温泉街

旅館内で完結してしまう状況から脱却し、滞在中に温泉街に出歩いて、川のせせらぎや四季折々の景色など、温泉街の風情を感じていただけるまちづくりが必要です。具体的な内容としては、

- ・温泉郷中心部と周辺をつなぐ、ストーリー性がある四季を感じられる遊歩道。
- ・阿知川、梨子野沢川、用水路など美しい水の流れを魅せるしかけづくり。
- ・歩行者と車が安全に行き交うことができ、ユニバーサルデザインを取り入れた誰もが安心して歩ける構造。
- ・歩行者には木陰を与え、住む人・訪れる人には四季の移り変わりを感じさせる、車と人を分ける役目も担う、計画的に配置された街路樹の整備。
- ・夜間でも安心して出歩ける道。また、夜の外出が楽しくなるよう、日本一の星空とともに楽しめる灯りの演出を取り入れた道。
- ・見て歩く楽しさやわくわく感をそそる、商店や飲食店の軒並み。

▶ 産直市場の設置

昼神温泉を訪れたお客様が立ち寄り、お土産として地元の農産物や特産品を購入でき、その場で味わうことのできる場所として、飲食店を兼ねた産直市場の設置が望まれます。農産物や特産品から阿智村の環境や人々の良さをイメージ発信できるとともに、旅館への食材の供給や地産地消を進め、観光と農業との連携を更に深めるものとなります。

▶ バスターミナルの設置

2027年に開業予定のリニア中央新幹線の駅とを結ぶバスの発着地として、昼神温泉内にバスターミナルの設置が必要です。阿智村・昼神温泉の玄関口として、インフォメーションをはじめ様々な機能を兼ね備えた中心部整備とリンクした場所に整備。また、周遊バスの拠点として観光客の利便を図るほかに、路線バス・村内コミュニティバスの乗換地として村内公共交通のハブ化を図り、駐車場や産直市場とも連携して村民の生活活性化にも貢献します。

▶ “和”を基調とし、“環境”をテーマとした温泉地づくり

建物などの整備には、周辺の自然景観に合わせ、世界への発信を目指して日本らしさを表現できるよう、和風の造りを基調とした整備が望まれます。また、今ある自然を活かし残すという意味での環境をテーマに、自然の景観を活かした整備と環境保全、エコ活動を積極的に取り入れる温泉地づくりを進め、日本一の星空の村にふさわしい、美しい温泉郷が昼神温泉の理想の姿といえます。

昼神温泉のまちづくりに関する答申書
(2018年(平成30年)11月)

▶ 日帰り入浴施設

温泉地として、訪れた誰もが温泉を利用できるよう、日帰り入浴できる外湯はなくてはならない施設です。昼神温泉の良質なお湯を楽しんでいただく場所として、また、健康福祉の役割も兼ねて、住む人・訪れる人の憩いの場、社交の場となるよう、昼神温泉の中心地にある「湯ったり～な昼神」と「鶴巻荘」の効率的な使用方法の検討を含め、新たな利用施設へ整備することを望みます。

▶ 有料（公共）駐車場の整備

日帰りで訪れるお客様にもゆっくりと昼神温泉に滞在していただくために、停留場所として有料（公共）駐車場の整備が必要です。安心して駐車できるよう舗装等の整備をし、明確な駐車場と位置付けることで案内もしやすくなります。収益は駐車場運営や温泉街整備への財源として活用することもできます。

▶ 女性に好まれるまちづくり

「好奇心」、「美と健康」、「食」、「情緒的な感覚」を大切にする女性目線を意識したまちづくりを目指します。

まちづくりを進めるにあたって

▶ プロジェクトチームによる事業進行

整備事業の実行にあたっては、専属的に進める体制づくりと専門知識を有する人の協力が不可欠です。行政機関内に専属的に進める部門（プロジェクトチーム）を立ち上げて、早期に事業を進行することを望みます。

▶ 整備スケジュール（完了時期）

主な箇所の整備完了目標年を定め、計画的速やかに温泉街整備を進めることを望みます。

- ・メインストリートである梨子野沢通周辺の改良整備・・・2022年
- ・リニア中央新幹線開業に向けたバスターミナルの設置・・・2026年

▶ 計画内容の公表と意見聴衆、内容見直し

計画策定及び事業進行にあたっては、多くの方の意見を取り入れて進めていただければ幸いです。計画内容や進捗状況が随時この委員会へフィードバックされることを望みます。また、社会情勢の変化に柔軟に対応できるよう、計画内容は年次ごと見直しを図り、時世に合った整備が進められるよう要望します。

▶ 整備後のまちづくり

整備事業の完了がまちづくりの終わりではなく、阿智村・昼神温泉がこれからも発展していくために、まちづくりの取り組みを継続して進める必要があります。訪れるお客様やここで暮らす人々が満足のいく環境を維持していくためには、行政・住民・旅館等観光事業者が協力し、整備後の温泉街を維持管理する体制づくりが必要です。

昼神温泉のまちづくりに関する答申書
(2018年(平成30年)11月)

[添付資料]

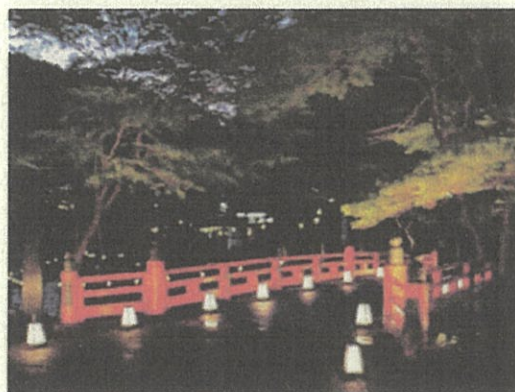
昼神温泉街整備の将来イメージ

自然景観と調和の取れた整備↓



橋の夜間イメージ

足下だけを照らす照明の工夫↓



川の一部を親水公園として
賑わいを持たせる↓



昼神の雰囲気を象徴できるような散歩道↓



和風を基調とした造り

足元のみ照らす落ち着いた雰囲気の夜間照明↓



川沿いを歩く

夜の散歩道イメージ↓



3-5 集出荷直売施設に関する答申

また、農産品の集出荷直売施設や道の駅の設置について検討を行ってきた集出荷直売施設準備委員会（委員長：熊谷 智徳 氏）は、2020年（令和2年）1月、当面の対応として、規模の大きい直売施設の建設ではなく、昼神温泉の再開発の中に複合施設として計画することが合理的と考える（集荷施設は別に設置することが望ましい）旨の答申書を村長に提出しています。

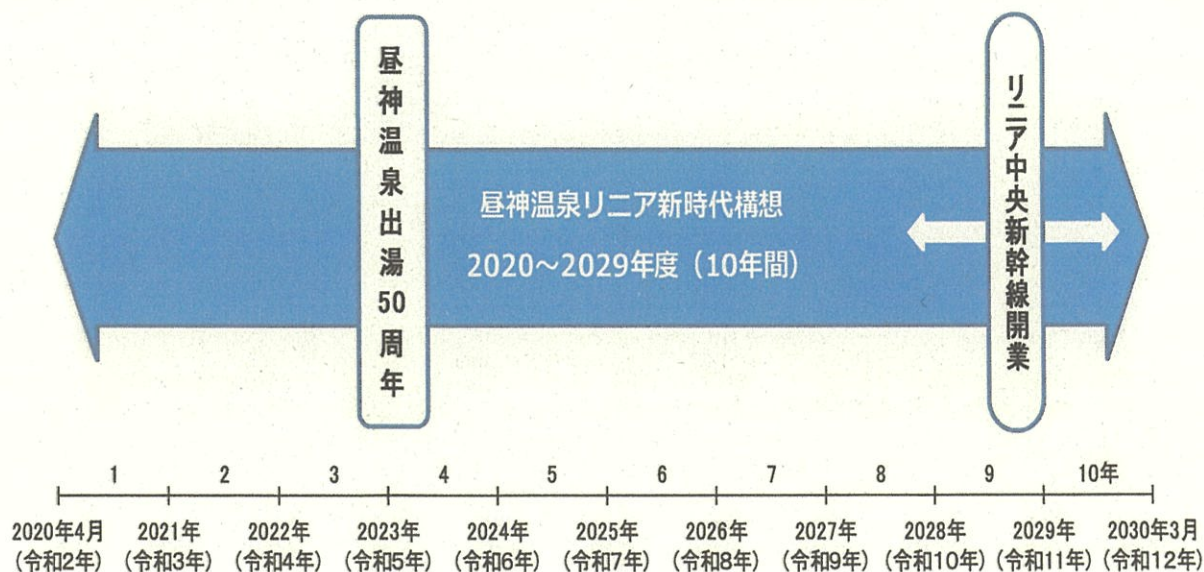
3-6 リニア新時代に向けた将来構想の策定とその位置づけ

これらの経過を踏まえ、阿智村及び阿智昼神観光局は、ここにリニア新時代に昼神温泉が目指すべき姿を明確にするための将来構想を策定し、「昼神温泉リニア新時代構想」と呼称することとしました。副題として「リニア新時代に輝き続ける昼神温泉の実現のために」を添えています。

当面、2030年（令和12年）を見据えた10年間（2020～2029年度（令和2～11年度））を構想期間として想定しています。

本構想に今回記載した内容は、これをもって確定というものではなく、後述のとおり、今後の議論・検討を経る中でさらなる具体化が必要であり、また場合によっては変更も否定するものではありません。その意味で、「Ver1.0」と付番し、今後の状況に応じて、Ver. 1.1 → 2.0 → 3.0 … と進化させる余地を残しました。

なお、リニア中央新幹線は、2027年（令和9年）の開業を目指し、整備が進められていたところですが、JR東海は、2020年（令和2年）6月、静岡県との協議が整わず、開業が遅れる見込みを表明しました。現時点で、具体的な開業時期は明確にされていませんが、国家的プロジェクトの進捗の遅れは様々な方面に影響が及ぶため、大幅な遅れが生じないように引き続き事業進捗に努めるとされています。



**第4章 リニア新時代に昼神温泉が目指す姿
～基本目標と5つの戦略～**

第4章 リニア新時代に昼神温泉を目指す姿

前章までの主旨や経過を踏まえ、阿智村及び阿智昼神観光局では、リニア新時代(リニア中央新幹線開通後の超高速交通時代)において昼神温泉を目指す姿を次のとおり見定め、国内のみならず「世界中から選ばれる存在」となることを目指します。

リニア新時代に目指す姿

「世界に選ばれる HIRUGAMI ONSEN」

ここで掲げた「世界に選ばれる」とは、海外に照準を置き、多くの外国人観光客を呼び込もうということではありません。多くの方々に昼神温泉を訪れていただくためには、世界に広く認知され、国内外を問わず誰もが訪れたいと思っただけの存在になる必要があると考えます。

これを実現するための手段として、以下の5つの戦略を推進します。

実現のために必要となる戦略

- I 広域周遊・滞在型観光の起点・拠点化
- II リピート需要(「もう一泊」「もう一度」)を誘引する魅力創出
- III 世界基準・世界水準の温泉郷運営
- IV 安心・安全の提供
- V 前衛的データ活用

I 広域周遊・滞在型観光の起点・拠点化

これまでの昼神温泉へのアクセスは、主に中央道を利用したバスや自家用車でした。リニアの開通は、この状況を一変させるチャンスです。

リニア長野県駅、岐阜県駅との中間に位置する地の利を最大限活かし、両駅を起点に昼神温泉を結ぶリニア二次交通、さらには、中央道、三遠南信自動車道等の道路網も活用し昼神と各地を結ぶ三次交通による交通ネットワークを構築することで、アクセスを容易にすると共に、昼神温泉に数日滞在しながら、県境域をまたいだ広域周遊を楽しむといった新たな旅行スタイルを提案することも可能になります。

II リピート需要（「もう一泊」「もう一度」）を誘引する魅力創出

多くの観光客に訪れていただくには、縁あって訪れていただけた方々に十分満足いただき、「もっと滞在したい」、「また訪れたい」との欲求を持っていただくことが重要です。

つまり、個々の来訪者の満足度の高揚、そのための魅力づくりが求められます。

満足度が高まれば高まるほど、多くのリピーターや強固なファンの確保に繋がり、彼らの評価が拡散することで、新たな顧客の獲得、さらにリピーターの増加につながる好循環が生まれるはずです。

III 世界基準・世界水準の温泉郷運営

人口減少社会の到来、社会経済に漂う長期的閉塞感の中で、訪日外国人旅行者の激的な増加が地域経済の消費維持の救世主になる可能性については1-3及び2-2-2で述べたとおりですが、世界中に数多ある観光地の中で昼神温泉が「選ばれる」には、世界に誇れる抜きん出た看板を掲げられるかどうかがポイントとなります。

阿智村は、「日本一の星空」をから発展させ、幸いにも「同時に天体観測を行った最多人数記録：2,640人」の世界記録を樹立し、世界に挑むための看板を一つ取得することができました。しかし、美しい星空は世界中に存在し、これだけで阿智村が選んでもらえるものではありません。

例えば、「美しい緑と自然」に抱かれ、「癒しと和み溢れる温泉」を擁し、「和のおもてなし」に溢れる「世界一の星」の村。さらに、そこは、社会が抱える各種課題に積極的に挑む「世界の先進地」。といった複層的な魅力の上積みにより好感度を高揚させ、いかに他と差別化できるかが重要です。

とりわけ、目下の人類の共通課題となっている「環境保全活動」の取組が世界的な評価を獲得できれば、「美しい自然や星空」を標榜する阿智村のイメージと重なり、大きな効果が期待できるものと考えます。

昼神温泉が目指す「世界基準・世界水準」とは

ここで目指そうとしている「世界基準・世界水準」とは、世界の高所得者層をターゲットにした高級宿泊施設の立地や高価なサービスを提供しようというものではありません。

観光産業・宿泊業の基本として、国の内外を問わず訪れていただける全ての方々に分け隔て無く、おもてなしの心による精一杯のサービス提供をベースに置くことが基本であり、これに加えて、世界に誇れる観光資源や取組が評価され、広く認知されることが重要と考えます。

IV 安心・安全の提供

Iで述べた交通ネットワークの充実により、温泉街を様々な移動媒体(車両)が往来することが予想されます。一方、IIで述べた魅力づくりは、多くの観光客が温泉街をそぞろ歩く姿を期待するものです。車両と人とが共に増える環境を両立するためには、両者を物理的に分離する等の一定の安全対策が必修です。

また2-3-3で述べたとおり、昼神地区は、1,000年に1度の大雨時には、阿智川等の氾濫により5mの浸水が想定され、また、東海地震の震源域から100km圏域に位置していることから巨大地震による被災も懸念されます。昼神温泉は、繁忙期に2,000人以上に及ぶ宿泊者や従業者を避難させる現実的な機能を備えなければなりません。

さらに、2019年(令和元年)末に中国で症例が確認され、全世界に感染が拡がり驚異となっている新型コロナウイルスなど未知の感染症についても、新たな知見や検証結果等を踏まえた備えを徹底していくことが必要です。

V 前衛的データ活用

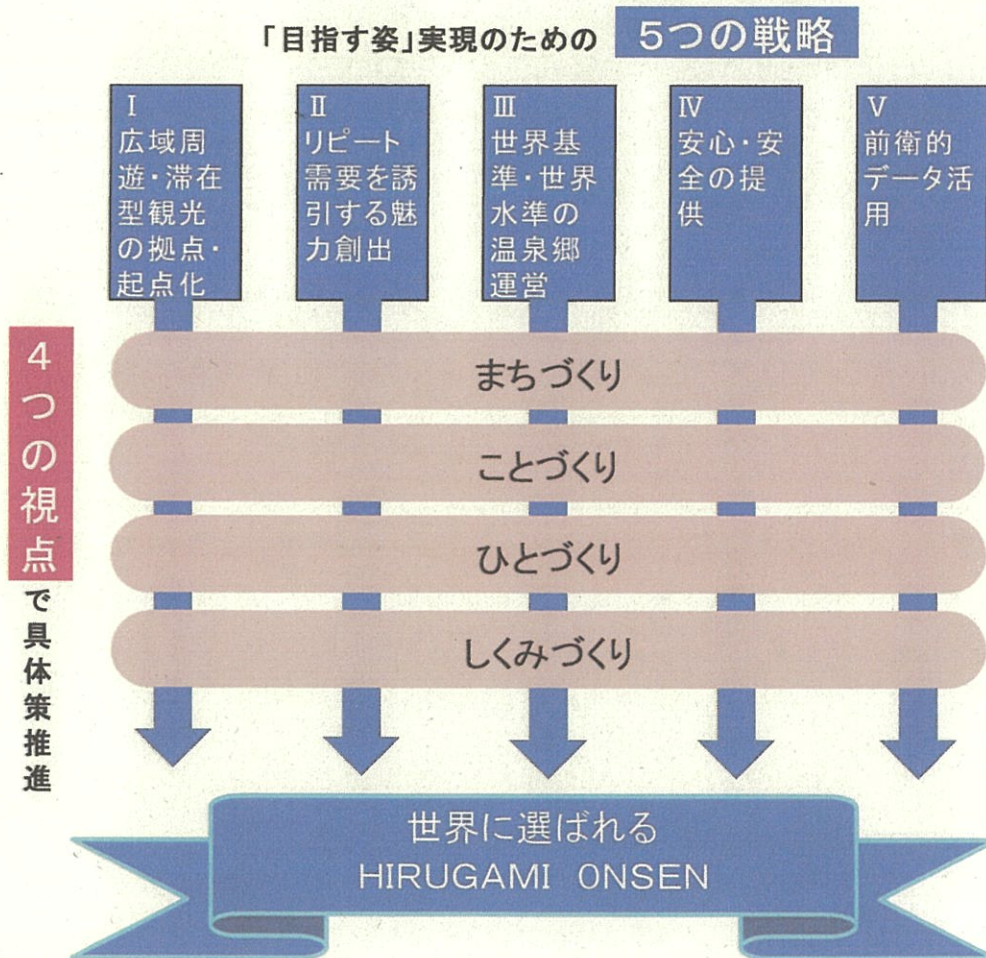
何時でも何処でも誰もが簡単に多様な情報にアクセスできる環境において、日々変化する人々の嗜好や関心事を把握し、時代の潮流にあった温泉郷運営を行っていくには、その動向を的確に掴み、そこに照準を合わせた戦略を展開することも重要です。

そのためには、既存の統計データの範囲に止まることなく、時代に即した前衛的な視点のデータ活用を進め、変化する需要に的確に対応していくことが必要になります。

第5章 実現への具体策
～4つの視点（4づくり）から～

第5章 実現への具体策 ～4つの視点（4づくり）から～

前章で掲げた目指す姿「世界に選ばれる HIRUGAMI ONSEN」を達成するための5つ戦略について、「まちづくり」、「ことづくり」、「ひとづくり」、「しくみづくり」4つの視点から、実現への具体策を推進します。



視点1 まちづくり

昼神温泉が「世界から選ばれる存在」となるため、まずはハード整備（まちづくり）の視点から、交通基盤と温泉街の整備について具体策を考えます。

○交通アクセス確保

リニア中央新幹線長野県駅・岐阜県駅及びその他の観光地等と昼神温泉を結ぶ公共交通を構築し、リニアを利用した観光客を取り込める環境を整えます。

○温泉街整備

訪れた誰もが、まち歩き・長期滞在したくなる魅力あふれる温泉街を創造します。

実現のための 5 戦 略	実現への具体策	
	交通アクセス確保	温泉街整備
I 広域周遊・滞在型 観光の起点・拠点 化	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア中央新幹線の二次交通として、長野県駅及び岐阜県駅と昼神温泉を結ぶバス路線を確保します。 ・昼神温泉から他の観光地・地域内への三次交通としてバス、タクシーのほか、レンタカー、レンタサイクルやニューモビリティ※の導入を検討します。 ・交通ターミナルから各宿泊施設を巡るシャトルバスなどの導入を検討します。 ・車両のクリーンエネルギー化を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉街中心地へ交通ターミナル機能を集約(周遊バス、路線バス、コミュニティバス、タクシー等のハブ機能)します(国道256号沿いの活用も併行して検討)。 ・中心地に所在する村所管施設等の機能を見直し、再整備します。 ・観光局の中心機能を温泉街中心地に配置するとともに、サテライト機能※としてACHIBASE(西側ゲートサテライト施設)、昼神キヲスク(中央サテライト施設)、新飲食店(東側ゲートサテライト施設)などを効果的に配置します。 ・サイクルツーリズムを推進し、中継地やサイクリスト受入の拠点を整備します。
II リピート需要 「もう一泊」「もう一度」を誘引 する魅力創出	<ul style="list-style-type: none"> ・住むひと、訪れるひとのだれにも解りやすい案内版(交通誘導・案内表示)を整備します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩き、そぞろ歩きを誘引する環境整備をします(四季(自然)・温泉らしさ・和の癒し(憩い・安らぎ)等に配慮した景観、水辺(清流)を活かした風景、星空に配慮した灯りの演出など)。 ・中心部の賑わい創出のため村所管施設等の機能見直し・再整備、観光局の移転配置とともに、朝市、産直市場、飲食店、カフェ、足湯、日帰り温泉等の機能を効果的に配置し、昼神温泉のランドマーク施設※(温泉の駅(仮称))として一体運営を検討します。 ・昼神温泉らしさを演出する写真映えする場所(フォトスポット)を効果的に配置します。 ・電線等の地中化を検討します。

実現のための 5 戦 略	実現への具体策	
	交通アクセス確保	温泉街整備
Ⅲ 世界基準の温泉 郷運営	<ul style="list-style-type: none"> ・世界基準に配慮した開発、運営を推進します。 ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン※を積極採用します。 ・環境に配慮した施設・設備の導入、運営（脱化石燃料、太陽光発電、木質バイオマス（木材に由来する再生可能な資源）の活用など）を検討します。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車などのクリーンモビリティ（クリーンエネルギーを動力に活用する乗物）の導入を推進します。 ・自動運転車両の導入を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアオフィス、コワーキングスペース※を整備し、リゾートテレワーク・ワーケーション※を推進します。 ・イベントや会議の開催が可能なコンベンション施設（会議場等）を設置します。 ・泊食分離にも対応できる飲食等の環境を整えます。
Ⅳ 安全・安心の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・歩車分離、歩行者優先道路を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の備えとして、住民、観光客、従業員の一時的避難施設（コンベンション施設と兼用）を整備します。
Ⅴ 前衛的データ活用	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の動向や人々の嗜好や関心事（GPS データ（位置情報）、インターネット上の検索、SNS（Social Networking Service）※で多く利用されている言葉の分析等）の積極的・継続的分析により必要な取組を検討・推進します。 	

※ニューモビリティ…近距離の移動を前提とする小型電気自動車等の次世代乗用車両。カーシェアリングやMaaS(情報技術を活用した複数の交通媒体の組み合わせによる移動手段(視点4しくみづくりで後述))等での活用の促進が期待される。

※サテライト機能…本部機能に対する出先（営業所、出張所など）の機能。

※ランドマーク施設…その地域を特徴付けるとともに目印となる施設。

※バリアフリー…高齢者や障がい者が社会生活を行う上で障壁(バリア)となるのを取り除くこと。当初は、道路や建物などハード面での段差や仕切りを取り除くことから始まりましたが、現在では社会制度、人々の意識、情報の提供など、社会全般にわたる障壁を含めて取り除くという概念になっています。

※ユニバーサルデザイン…障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインするという考え方。

※シェアオフィス…特定の企業や組織が占有するのではなく、任意の組織の任意の者が、自由な時間に必要なスペースをシェアし、仕事場とするレンタルスペース。

※コワーキングスペース…シェアオフィスとほぼ同義で活用されますが、異なる組織の者の交流により、新たなコミュニティの形成を想定するもの。

それぞれの得意分野を融合させることで、新たなビジネスチャンスが生まれるという考えによるものです。

※リゾートテレワーク・ワーケーション…観光地やリゾート地で休暇を取りながらテレワークを行う新たな働き方。新型コロナウイルスの感染拡大により多くの企業でテレワークの導入が進んだことから、今後の需要拡大が期待されます。

※SNS(Social Networking service)…登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスの総称。

◎温泉郷中心部（村所管施設等の機能）の再整備の方向性

現在、昼神温泉の中心部には村所管施設等が複数所在しています。これらの施設は、観光目的のみならず村民の福祉や健康増進、情報発信、文化・歴史の伝承という役割も果たしてきました。昼神温泉の黎明期から今に至るまで、多くの村民に親しみを持ってご利用いただいています。

一方で、建設から相当の年月を経て老朽化が進んでおり、その維持管理が課題になりつつあります。近い将来、大規模な改修や設備更新も行わなければなりません。

また、リニア新時代を見据えた新たな機能の配備も必要となります。この際、温泉郷の中心地として、広く昼神温泉のランドマークと認知されるような環境や機能を配備し、観光客のみならず、村民の皆様にも日常的に訪れていただける癒しの空間を創造し、温泉郷中心部の賑わいを創出していくことが求められます。

これらに対応するためには、一定の機能の委譲・移設等も踏まえた機能転換も必要と考えられ、将来の村民需要を見極めつつ、今後、関係者間でこれら施設の具体的再整備のあり方について、さらに検討を進める必要があります。観光客・村民の双方が集う憩いの場の創造のため、具体的な整備計画については、関係者間で十分な協議と、合意形成が必要と考えます。

ここでは、そのためのたたき台として、考え方とイメージ図を提示します。

なお、1995年（平成7年）にとりまとめられた「昼神温泉マスタープラン」が棚上げされた経過を踏まえ、民有地の活用には踏み込まず、原則として村有地と村有施設の再整備に限定した内容としています。

村所管施設等の再整備の考え方（今後の検討のたたき台）

施設名	現行機能		再整備の方向性 (イメージ)	留意事項
		管理運営		
公営保養センター（鶴巻荘）	村民福祉・地域活性化のための温泉宿泊施設	賃貸 ㈱鶴巻 ～R7年3月	・現4施設を一体化した新施設として再整備(観光案内所、日帰り温泉、宴会場、飲食店、直売市場、足湯、コンベンション・防災機能、コワーキングスペース、観光局事務所など) ・宿泊機能・プールは廃止も視野に検討(廃止に当たっては村民需要への対応を別途検討(業務委託等))	S52年2月竣工 (43年経過) H22年度耐震改修
温泉利用公営施設（湯ったりーな昼神）	健康福祉の増進・観光振興のための日帰り温泉施設・プール	指定管理 阿智開発公社 ～R4年3月	・写真童画館機能は、全村博物館構想も踏まえ配置先を検討 ・リニア二次交通・三次交通の発着点、交通ハブ機能	H13年3月竣工 (19年経過)
昼神温泉観光センター（熊谷元一写真童画館、飲食店、売店）	観光振興のための展示施設、ホール、店舗	指定管理 阿智開発公社 ～R4年3月	(※国道256号沿いへの設置案も併行して検討) ・一体的施設運営のしくみを検討	S63年1月竣工 (32年経過) 補助金による取壊制限(2025年(令和7年)3月まで)
農林水産物直売・食材供給施設	農産物直売・蕎麦打ち体験等	管理委託 ㈱ちさと東		H12年3月竣工 (20年経過) 補助金による取壊制限(2022年(令和4年)3月まで)
朝市広場		管理委託 朝市組合	・朝市は現観光センター北側付近に移転 ・跡地はモータープール(駐車場・シェアカー等の基地)として整備	H22年6月竣工 (10年経過) 補助金による解体制限(2026年(令和8年)3月まで)
昼神パーキング		使用賃借 阿智昼神観光局		H31年3月竣工
その他			・多目的広場(昼神パーキング北側) ・周辺道路・遊歩道整備 ・梨野沢川景観整備	

温泉郷中心部（村所管施設等の機能）の再整備イメージ図（立体図）



南側から望む視点



視点2 ことづくり（体験・コンテンツ（観光メニュー等））

次に、「世界から選ばれる存在」となるための戦略について「ことづくり」の視点で具体策を整理します。

実現のための 5 戦 略	実現への具体策
I 広域周遊・滞在型 観光の起点・拠点 化	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県観光の南の玄関口として、南信州地域最大の収容客数を誇る昼神温泉を宿泊の拠点とし、南信州地域や、木曾地域、中津川市、三遠南信地域など他の観光地と広い範囲での連携を推進します。
II リピート需要 （「もう一泊」「もう一度」）を誘引 する魅力創出	<ul style="list-style-type: none"> ・既存コンテンツ（観光メニュー等）の充実・次の事業展開（日本一の星空、日本一の花桃、中央アルプス国定公園など）を推進します。 ・地域資源に着目した唯一無二のコンテンツ（観光メニュー等）の開発・充実（ガイドツアー、サイクルーツリズム（自転車を活用した観光）、歴史文化、アウトドア（野外活動）、観光農園、農林業体験、登山等）を推進します。 ・繁忙期と閑散期のギャップを埋めるコンテンツ（観光メニュー等）を検討します。 ・阿智村ならではの、昼神ならではの地域食材を活用した食の提供や、ご当地グルメを検討し、食べ歩きの楽しい観光地を目指します。 ・With コロナ・After コロナへの対応として、高品質・高付加価値のサービス・商品の提供や、新たにその有効性が認識された地元や県内の需要の取り込みを促進します。 ・プロスポーツクラブ等との連携による宿泊プランやイベントの開催を推進します。 ・満蒙開拓平和記念館や熊谷元一記念館等との連携による学習旅行の受入を促進します。 ・美人の湯と言われ、優れた泉質に着目した美容・健康・福祉分野の展開を推進します。 ・女性視点の企画・商品開発を推進します。

実現のための 5 戦 略	実現への具体策
Ⅲ 世界基準の温泉 郷運営	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年(令和元年)5月11日に認定された「同時に天体観測を行った最多人数」のギネス世界記録の活用を進めます。 ・昼神☆プレミアムサポート※などの充実によりユニバーサルツーリズム(年齢や障害の有無にかかわらずすべての人が楽しめる旅行)を推進します。 ・弱者視点のコンテンツ(観光メニュー等)・サービスの提供を推進します。 ・周辺地域(木曾等)を訪れるインバウンドの宿泊地化を推進します。 ・インバウンド(訪日外国旅行者)向けのコンテンツ(観光メニュー等)を開発します。 ・多言語・他文化対応のサービス展開を推進します。
Ⅳ 安全・安心の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮したコンテンツ(観光メニュー等)の運営・提供に努めます。 ・With コロナ・After コロナへの対応として、知見や検証結果等を踏まえ、感染予防策を徹底した新たな営業スタイルを確立します。
Ⅴ 前衛的データ活用	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の動向や人々の嗜好や関心事(GPSデータ(位置情報)、インターネット上の検索、SNS(Social Networking Service)※で多く利用されている言葉の分析等)の積極的・継続的分析により必要な取組を検討・推進します。

※昼神☆プレミアムサポート…(株)阿智昼神観光局がユニバーサルツーリズムの具体的取組としてモデル事業として推進する介助サービス付き観光プラン。旅行介助の専門資格を持つ訪問介護事業所のスタッフが各種観光や体験をサポートします。

※SNS(Social Networking Service)…登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスの総称。

視点3 ひとづくり

さらに、「世界から選ばれる存在」となるために重要な要素となる「ひとづくり」の観点から、戦略の展開を考えます。

実現のための 5 戦略	実現への具体策
I 広域周遊・滞在型 観光の起点・拠点 化	<ul style="list-style-type: none"> ・南信州、木曾、県境域など広域に渡る観光・文化等に精通し、広域観光に対応できるガイドを養成します。 ・村内各地の観光資源の魅力(文化・歴史・山岳等)を案内できるガイドの育成や組織化を推進します。
II リピート需要 （「もう一泊」「もう一度」）を誘引 する魅力創出	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の声や観光庁が進める「サクラクオリティ※」など第三者機関による品質管理のしくみの活用による接客向上等に取り組みます。 ・従業員一人一人、地域に住む一人一人のおもてなし意識の醸成・高揚に努めます。 ・観光業へ携わる人材確保のため、学生インターンシップ(職業体験)の受け入れを促進します。 ・住民自らが案内人となれるよう地域への情報発信を充実するとともに、地域への誇りや愛着の醸成のための活動を支援し、おもてなしの意識の高揚を図ります。
III 世界基準の温泉 郷運営	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「心のバリアフリー（すべてのひとや価値観に対する理解・公平性の確保）」を推進します。 ・多様で柔軟な働き方の選択が可能となるよう働き方改革や、雇用環境の改善により、幅広い人材の確保を目指します。 ・訪日外国人旅行者への対応のため、外国語対応ができる人材確保及び育成を進めます。 ・恵州学院などからの国際インターンシップ※の受け入れを積極的に推進し、文化や言語の交流を促進します。 ・基幹産業としての観光に対する住民理解の促進に取り組みます。
IV 安全・安心の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者や従業員の意識の高揚により、昼神温泉の防災・危機管理機能・能力の強化・充実を図ります。

実現のための 5 戦 略	実現への具体策
V 前衛的データ活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者の動向や人々の嗜好や関心事（GPS データ（位置情報）、インターネット上の検索、SNS (Social Networking Service) ※で多く利用されている言葉の分析等）の積極的・継続的分析により必要な取組を企画・実践できる人材育成を進めます。

※サクラクオリティ…ホテルや旅館等の宿泊施設を中心とした観光品質認証制度。世界中の旅行者に安心して快適な旅行を提供することを目的とするもので、申請にもとづき観光サービスの品質の高さを認証する仕組み。

※国際インターンシップ…海外の学生を長期で受け入れ、職業体験を行いながら日本文化を学んでもらうプログラム。2019 年度（令和元年度）に中国の惠州学院(大学)の学生を半年間にわたって受入れています。

※SNS (Social Networking service) …登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスの総称。

視点4 しくみづくり

最後に「世界に選ばれる存在」を支える戦略展開の基盤、昼神温泉全体で取り組む「しくみづくり」の観点から具体策を整理します。

実現のための 5 戦略	実現への具体策
<p>I 広域周遊・滞在型観光の起点・拠点化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MaaS(Mobility as a Service(情報技術を活用した複数の交通媒体の組み合わせによる移動手段))※の導入を研究します。 ・バスターミナルを発着する路線バス、高速バスほか交通機関に対応する送迎バスの共同運航(シャトルバス等)を検討します。 ・昼神温泉と村内や近隣観光地を結ぶ情報共有ネットワークを検討します。 ・中心地に整備する拠点施設(温泉の駅(仮称))の一体運営について検討します。
<p>II リピート需要(「もう一泊」「もう一度」)を誘引する魅力創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS(Social Networking Service)※等(写真・動画・ハッシュタグ(#)※・インフルエンサー※の活用等)による情報発信を推進します。 ・訪れるたびに増すお得感の創出(リピーター、インフルエンサー※に対する特典等)を検討します。 ・農観連携による阿智村ならではの地域食材の安定供給や地産地消のしくみづくりを推進します。 ・女性の目線を意識した温泉地づくりを推進します。 ・利用者の声や観光庁が進めている「サクラクオリティ※」など第三者機関による品質管理のしくみの活用を通じ、温泉郷全体の品質向上を図ります。
<p>III 世界基準の温泉郷運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs(Sustainable Development Goals)※を踏まえた取組を推進します。 ・国のSDGs未来都市制度、県のSDGs推進企業登録制度などの活用を検討します。 ・環境配慮型経営の実践として、CO2フリー電気※等の環境に優しいエネルギーの積極的な採用、脱プラスチック、古紙のリサイクル、廃棄物の削減に取り組みます。

実現のための 5 戦 略	実現への具体策
	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境保全に係る財源確保策として、ふるさと納税、クラウドファンディング※等による資金調達を研究します。 ・環境保全事業やプロジェクト等への協力・参加を推進します (Ex: 環境関連ファンド※へ投資するしくみ等)。 ・先端設備や新技術の積極的な導入を支援することにより、効率的な施設運営を推進します。 ・地域の持続的な経済活動のため、農産物・米などの積極的な地域内での調達を推進します。 ・世界に誇れる温泉地運営の基盤となる人材の確保・育成と、多様な働き方を可能とするしくみづくりに取り組みます。
IV 安全・安心の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・昼神地区における災害時の住民、観光客、従業員など地域全体の避難のしくみ(避難場所、避難誘導、情報の収集・共有等)を再構築し、防災・危機管理対応の強化・充実に図ります。 ・With コロナ・After コロナへの対応として、認証制度の導入などによる感染予防策を徹底します。 ・温泉施設運営を揺るがす災害や未知の感染症などの外的危機に対応する公的支援のあり方を検討します。
V 前衛的データ活用	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の動向や人々の嗜好や関心事 (GPS データ (位置情報)、インターネット上の検索、SNS (Social Networking Service) ※で多く利用されている言葉の分析等) の積極的・継続的分析による戦略を共有し活用する仕組みづくりを進めます。

※MaaS (Mobility as a Service)…運営主体を問わず情報通信技術を活用することにより自家用車以外のすべての交通手段による移動を一つのサービスと捉え、シームレスにつなぐ新たな移動の概念。

電車やバス、タクシーなど複数の交通媒体を乗り継いで移動する際、手元のスマートフォン等で検索～予約～支払を一度に行えるようにすることで、ユーザーの利便性を高めるしくみで、移動の効率化による渋滞緩和や環境問題、交通弱者対策などの問題解決にも効果があるものと期待されます。

※SNS (Social Networking Service)…登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスの総称。

※ハッシュタグ(#)…SNS上で投稿内のラベルとして使われる”#(シャープ(半角))”を付けたキーワード。ハッシュタグを検索することで、同じハッシュタグが付いた投稿をまとめて閲覧することができます。

※インフルエンサー…SNSなどを通じた情報発信で、多くの人々に影響を与えている人物。流行やトレンドの発信源として多大な影響力を持ち、企業等のマーケティング戦略でも重要視されています。

※サクラクオリティ…ホテルや旅館等の宿泊施設を中心とした観光品質認証制度。世界中の旅行者に安心して快適な旅行を提供することを目的とするもので、申請にもとづき観光サービスの品質の高さを認証する仕組み。

※SDGs(Sustainable Development Goals)…2015年(平成27年)9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された2030年(令和12年)を年限とする17の国際目標で、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すもの。

これを推進する制度として、SDGs未来都市(国)、SDGs推進企業(県)などの制度があります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



※クラウドファンディング…群衆(クラウド)と資金調達(ファンディング)の造語で、インターネットを介して呼びかけを行う等の方法で、不特定多数の人々から資金を調達する手段。

※環境関連ファンド…地球温暖化をはじめ、水質汚濁、大気汚染、砂漠化、生物多様性の喪失などの各種環境問題に対応し、環境関連ビジネスを展開する企業やプロジェクトの技術開発や運営に係る資金調達など。

◎「世界に選ばれる」ために備える「世界水準」の選択肢＝SDGsの推進

リニア新時代の昼神温泉のターゲット（顧客）は日本国内に止まらず世界の人々であり、いかに世界から認められる存在となれるかが重要なポイントです。そのためには、昼神温泉を世界基準の観光地（温泉郷）として世界中に認知させる必要があります。

幸いにも、阿智村は「日本一の星空」から派生し、2019年（令和元年）に世界記録「同時に天体観測を行った最多人数：2,640人」を樹立し、世界を相手に闘うツールの取得に成功しました。今後は、世界をターゲットに星空のプロモーションの展開が見込まれるところですが、これだけで世界が注目してくれるかどうかは未知数です。この際、星空に加え昼神温泉が「世界水準」であることを広くアピールできる看板を掲げたいところです。


そこで選択肢になり得るのが「世界の先進地」としての認知です。脱化石エネルギーや脱プラスチックなど環境保全活動は、その代表例に挙げられますが、例えば、これを包含する考え方として国連が提唱する持続可能な開発のための2030アジェンダ＝SDGs（Sustainable Development Goals）の視点を、温泉全体で共有・推進し、その先進地として広く認知されれば、昼神温泉の誘客にも有効なものと考えます。

国が用意する「SDGs未来都市※」や県の「SDGs推進企業※」等の制度を効果的に活用し、阿智村を挙げた展開が期待されます。

※SDGs未来都市制度…地方創生分野における日本の「SDGsモデル」の構築に向け、優れた取組を提案する都市を選定する内閣府の制度。特に先導的な自治体SDGsモデル事業に選定されれば事業費の助成がある。

※SDGs推進企業制度…SDGsのゴール等につながる具体的な取組を提示し、それを踏まえた具体的なアクションに取り組む企業等を登録する県の制度。県はオリジナルの登録マークの提供やHP等による公表により企業の取組を支援する。

昼神温泉におけるSDGs推進の具体策

関連するSDGs	推進の具体策
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザイン・バリアフリーのまちづくり ○ユニバーサルツーリズムの推進 ○健康・介護分野での温泉活用の推進
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心のバリアフリーの推進(すべてのひと・価値観に対する理解促進・公平性の確保) ○全ての人に分け隔てないホスタビリティ・サービスの提供 ○女性視点、弱者視点の経営 ○女性の積極的な登用
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>すべての人々に手頃で信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○脱炭素エネルギー設備・システムの採用 ○CO2フリー電力の導入
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用および働きがいのある人間らしい仕事を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昼神温泉を基軸とした地域経済・地場産業の活性化 ○農観連携・地産地消の推進 ○リゾートテレワーク・ワーケーションの環境整備 ○働きがいや働き易さなど働き方改革・雇用環境の改善
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全・安心のひとに優しいまちづくり ○効果的な公共交通ネットワークの構築 ○歩行者優先による歩車分離のしくみ ○歩いて楽しめる環境・景観の整備 ○防災機能を備えたコンベンション機能
 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○脱化石エネルギーの推進、温室排出ガス抑制の取組 ○電気自動車、木質ボイラー等環境に優しい技術の積極採用 ○廃棄物削減の推進
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○脱プラスチックの推進 ○環境プログラム等への協力・参加

◎4づくりによる5戦略の主な推進策(具体策)一覧

戦略	I 広域周遊・滞在型 観光の拠点・起点 視覚化	II リピート需要を誘引する魅力創 出	III 世界基準・世界水準の温泉 郷運営	IV 安心・安全の提 供	V 前衛的 データ 活用	
① まちづくり	アクセス確保	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア中央新幹線との結節(二次交通(バス路線)の確保 ・他の観光地・地域内へのアクセス(三次交通)の確保 ・各宿泊施設を巡るシャトルバスなどの導入 ・車両のクリーンエネルギー化 	<ul style="list-style-type: none"> ・だれにも解りやすい案内板(交通誘導・案内表示)の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界基準に配慮した開発、運営 ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの積極採用 ・環境配慮型施設・設備の導入、運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンモビリティの導入 ・自動運転車両の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩車分離、歩行者優先道路の検討
	温泉街整備	<ul style="list-style-type: none"> ・中心地への交通ターミナル機能の集約(国道256号沿いの活用も検討) ・村所管施設等の機能見直し・再整備 ・観光局機能の効果的分散配置 ・サイクルツーリズムの中継地・拠点の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩き、そぞろ歩きを誘引する環境整備(四季(自然)・温泉らしさ・和の癒し等に配慮した景観、水辺(清流)を活かした風景、星空に配慮した灯りなど) ・中心部の賑わい創出(村所管施設の機能見直し・再整備、観光局の移転配置、朝市、産直市場、飲食店、カフェ、足湯、日帰り温泉等の機能の効果的配置、ランドマーク施設(温泉の駅(仮称))として一体運営) ・フオスポットの効果的配置 ・電線等の地中化の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアオフィス、コワーキングスペースの整備(リゾートテレワーク・ワーケーションの推進) ・コンベンション施設の設置 ・泊食分離への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の一時避難施設(コンベンション施設と兼用)の整備 	来訪者の動向や人々の嗜好や関心事(GPSデータ、ネット検索、SNS分析等)の積極的・継続的分析等による戦略展開
	② (体験・コンテンツ) ことづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・他の観光地との連携推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存コンテンツの充実・次の事業展開 ・地域資源に着目した無二のコンテンツの開発・充実 ・繁忙期と閑散期のギャップ解消 ・地域食材を活用した食、ご当地グルメの提供 ・高品質・高付加価値のサービス・商品の提供、地元や県内需要の取り込みの促進(Withコロナ・Afterコロナ対応) ・プロスポーツクラブとの連携 ・優れた泉質に着目した美容・健康・福祉分野の展開 ・女性視点の企画・商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギネス世界記録の活用 ・ユニバーサルツーリズムの推進 ・弱者視点のコンテンツ・サービスの提供 ・周辺地域(木曾等)を訪れるインバウンドの宿泊地化 ・インバウンド向けのコンテンツ開発 ・多言語・他文化対応のサービス展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮したコンテンツ運営・提供 ・感染症予防策の徹底による新たな営業スタイルの確立(Withコロナ・Afterコロナ対応) 	
	③ ひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・広域観光に対応できるガイドの養成 ・村内各地の観光資源を案内できるガイドの育成・組織化 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の声や第三者機関による品質管理のしくみの活用による接客向上等 ・従業員一人一人、地域に住む一人一人のおもてなし意識の醸成・高揚 ・人材確保のための学生インターシップの受入 ・地域の誇りや愛着の醸成、おもてなしの意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「心のバリアフリー」の推進 ・多様で柔軟な働き方改革、雇用環境の改善による幅広い人材の確保 ・外国語対応ができる人材確保・育成 ・国際インターシップの積極的受け入れ、文化や言語の交流促進 ・基幹産業としての観光に対する住民理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者や従業員の意識の高揚による防災・危機管理機能・能力の強化・充実 	
④ しくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・MaaSの導入 ・送迎バスの共同運航(シャトルバス等) ・昼神温泉と村内や近隣観光地を結ぶ情報共有ネットワーク ・中心地拠点施設の一体運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等(写真・動画・ハッシュタグ・インフルエンサー活用等)による情報発信 ・訪れる度に増すお得感の創出(リピーター・インフルエンサーに対する特典) ・農産連携による安定した地域食材の供給や地産地消のしくみづくり ・女性目線による温泉地づくり ・利用者の声や第三者機関による品質管理のしくみの活用を通じた温泉郷全体の品質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを踏まえた取組 ・CO2フリー電気等の積極的な採用、脱プラスチック、古紙のリサイクル、廃棄物の削減 ・地球環境保全に係る財源確保(ふるさと納税、クラウドファンディング等) ・環境保全プログラム等への協力・参加 ・先端設備・新技術の積極的な導入支援 ・農産物・米などの地域内調達 ・人材確保・育成、多様な働き方の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・危機管理対応の強化・充実(地域全体の避難のしくみの再構築) ・認証制度などによる感染予防策の徹底(Withコロナ・Afterコロナ対応) ・温泉地経営を揺るがす外的危機発生への公的支援のあり方の検討 		

第6章 実現に向けた各主体の役割と推進体制

第6章 実現に向けた各主体の役割と推進体制

昼神温泉の目指す姿と具体策について整理しましたが、阿智村、阿智昼神観光局の取組のみでこれを実現していくことは不可能です。

昼神温泉に関わる全ての者が、共通認識のもとにあるべき姿と具体的戦略を共有し、その実現のため、それぞれの役割に応じて、相互に連携しつつ主体的、積極的な取組を実践することが必要です。

これら複層的な取組の相乗効果により、より大きな、そして確かな潮流を生み出すことではじめて、昼神温泉の明るい未来が拓けるものと考えます。

6-1 各主体が担う役割と必要な取組

将来構想の実現のために、昼神温泉に携わる各主体が担う役割と具体的取組としては、概ね下表の内容が考えられます。一過性の措置で終わるのではなく、それぞれの立場で、長期的視野のもと主体的かつ継続的な取組が求められます。

各主体が担う役割と求められる取組

主 体	担う役割	求められる取組
阿智村	温泉街全体のまちづくり (必要な機能整備、戦略的投資(主にハード整備)、村民理解の促進、計画進捗の総括・調整・事務局機能)	交通基盤整備、温泉街環境整備、村関連施設の整備・運営(健全経営)、村民への情報提供・説明・意識醸成、継続的データ取得と分析、事業進捗管理・各種調整、予算措置・執行
阿智昼神観光局	温泉街全体のプロデュース(主にソフト事業の展開)	新コンテンツ・サービスの企画・開発・提供、関係者間の合意形成
阿智村議会	村・観光局等の各種事業・取組への提言・助言、進捗等のチェック、村民意見の反映	事業費予算審議・実施状況・事業進捗状況チェック、村民意見を踏まえた提言・助言の実施

主 体	担う役割	求められる取組
旅館経営者会	実現に向けた意識共有、 経営者一丸の取組	戦略的経営(計画的投資、 環境・SDGs の取組等)に 関する意識共有(意思統 一)、賑わい創出のしくみ づくり・実践
宿泊事業者・経営 者	将来構想を踏まえた戦略 的経営・取組の実践、観 光局・経営者会等の各種 取組への積極参加・協力	戦略的経営視点による計 画的投資・サービス展開、 環境・SDGs を踏まえた経 営の実践、人材育成・教 育、各種プロモーション・コンテンツへの参画
一般財団法人阿智 開発公社	将来構想を踏まえた湯っ たりーな昼神等の運営、 取組の実践	
一般社団法人阿智 村産業振興公社	阿智村産農産物の販売促 進、安定供給	旅館・飲食店等への地域 食材の安定供給・直売所 等による販売促進
旅館等の従業員	心のこもった接客・サー ビスの提供、	ホスピタリティーの向 上、利用者目線のサービ ス・おもてなしの実践、 安全・危機管理意識の高 揚
商店・飲食店	ニーズにあった商品・サー ビスの提供	地場産品主体のニーズに あった商品展開、おもて なしの実践
昼神温泉朝市組合	魅力ある朝市の運営	
朝市出店者		

主 体	担う役割	求められる取組
阿智村商工会	各主体への積極的経営支援	各主体への積極支援、経営・事業承継・創業等相談・提言、金融支援
金融機関		
交通事業者(JR)	リニア計画の着実な進捗、昼神温泉との連携	リニア計画の予定どおりの進捗、昼神温泉を滞在地とする観光商品の連携企画・販売・実施
交通事業者(バス・タクシー・レンタカー等)	昼神温泉をハブとした公共交通の運行・移動手段の提供	リニア駅-昼神間、昼神-各地間の公共交通の運行、その他の車両サービスの提供
地域住民・村民	ホスピタリティーの向上・発信	環境美化、観光事業への理解・協力、全村でのおもてなし意識の高揚、SNS等を活用した個のレベルでの積極的情報発信
南信州地域振興局	地域振興、広域観光の取組支援・助成	広域観光事業の展開、各種事業への支援・助言
飯田建設事務所	国道・河川の環境整備・防災対策、温泉郷整備への技術的支援・助言	国道 256 号・阿智川等の環境・景観整備、防災対策、温泉郷内の道路・水路・景観整備への支援・助言
飯田保健福祉事務所(飯田保健所)	施設の衛生管理指導	衛生・感染症対策等への指導・助言・協力

主 体	担う役割	求められる取組
南信州広域連合	広域観光・地域観光の推進	昼神温泉を拠点とする南信州、木曾のほか県境域等との広域観光や滞在型観光の推進・支援
南信州観光公社		
県観光機構		
その他（取引事業者、納入事業者等）	昼神温泉の目指す方向性の理解・共有、施策への協力	方向性に沿った商品・サービスの提供、昼神温泉の一員としてのおもてなしの実践、それぞれの立場での施策への協力、情報発信など

6-2 将来構想推進のための体制（組織）

将来構想全体の共有のほか、事業進捗を図るため、関係者（6-1 記載の各主体の代表者等）が集う「昼神温泉リニア新時代構想推進委員会」を設置し、ONE TEAM による事業進捗を図っていく必要があります。

当該組織の事務局は、村が担うことが適当と考えます。

第7章 事業の進め方及びスケジュール

第7章 事業の進め方及びスケジュール

リニア新時代に目指す姿「世界に選ばれる HIRUGAMI ONSEN」の実現に向け、計画的かつ効果的な事業進捗を図る必要があります。

7-1 計画的・効果的な事業進捗

本構想の構想期間（2020～2029年度（令和2～11年度））の10年間には、2023年（令和5年）の昼神温泉出湯50周年の節目、2027年（令和9年）を目標とするリニア中央新幹線開業という歴史的転換点が訪れます。これらのポイントを見据えた上で、まちづくり、ことづくり、ひとづくり、しくみづくりのそれぞれを連動させ、計画的かつ効果的な事業進捗を図ることが求められます。

一連の事業を「昼神温泉出湯50周年記念事業」や「リニア中央新幹線開業記念事業」と銘打ち、パッケージングにより効果的に実施・発信していくことも有効と考えます。

7-2 温泉郷中心部整備スケジュール

特に温泉郷中心部（村所管施設等）の再整備に関しては、リニア中央新幹線の開業を見据え進めなければなりません。

一方で、現行施設の休業はできる限り避け、継続運営を担保しながら、段階的な施設整備と機能移転を効率的に進める必要があります。

この観点から想定される整備スケジュールは概ね次表のとおりです。リニア中央新幹線の開業時期は当初予定されていた2027年（令和9年）から遅れる見通しも示されていますが、これに左右されることなく着実な事業進捗が求められます。

温泉郷中心部（村所管施設等）再整備の主な推進スケジュール（想定）

年度	①湯ったりーな 昼神／鶴巻荘	②昼神温泉観光セン ター／農林水産物直 売食材供給施設	③朝市広場／ 昼神パーキング	④多目的 広場／周 辺整備
2020年 (令和2年)	基本設計			
2021年 (令和3年)	実施設計 用地取得・各種手続き等			
2022年 (令和4年)				
2023年 (令和5年)		屋神温泉出湯50周年		
2024年 (令和6年)	改修・改築工事			
2025年 (令和7年)	新施設開業 (②機能移転)	解体 新朝市施設／多目的広場／道路／周辺整備		
2026年 (令和8年)		新朝市施設 開業	現朝市施設等 解体 ↓ モータープール ／駐車場整備	
2027年 (令和9年)				
2028年 (令和10年)	リニア中央新幹線開業			
2029年 (令和11年)				

おわりに

人口減少、少子・超高齢社会を迎え、国際化、情報化、技術革新により人々のライフスタイルや価値観が多様化する時代、私達は、7年後に訪れるリニア中央新幹線の開通という千載一遇のチャンスを的確に捉え、「世界から選ばれるHIRUGAMI ONSEN」を実現しなければなりません。

今回の「昼神温泉リニア新時代構想」は、それを実現するために現時点で考えられる戦略と具体策をまとめたものですが、ここに記載された取組で全て万全かと問われれば、そうではありません。対策についても抽象的な記述で止まっているものも多く、今後、さらに議論を深めていく必要があります。

また、この構想には、昼神温泉の現状と課題について広く問題提起するという意味も込めさせていただきました。関係するすべての方々にこの構想を共有いただき、自分事として考え、それぞれの立場で考え、一貫した行動を実践いただくことが重要と考えます。

この構想の策定過程で私達は、全世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスという全く新たな危機と遭遇し、有効な打開策は今も見えない状況です。私達は、この未知の感染症に対峙し、これまでの価値観にとらわれない新たなスタイルを導き出さねばなりません。

これらを乗り越えた先に、世界中から訪れた観光客で賑わい合う10年後の昼神温泉郷の風景が広がるはずです。

そんな景色を思い描きながら、共に進みましょう。